

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：食物栄養学科

資格：准教授

氏名：高岸 和子

研究分野	研究内容のキーワード
臨床栄養	臨床栄養教育 栄養アウトカム
学位	最終学歴
修士（学術）	大阪教育大学大学院 教育学研究科 健康科学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 臨床栄養学 I	2015年4月	栄養アセスメントは、症例を用いた演習を導入し、個人が実践することで、算出方法、算出した数値の使い方などをよりスムーズに理解し、習得できるよう図った。また、栄養補給法では、人体モデルを活用し、挿入方法、ルートなどの確認を容易とした。疾患別栄養管理は、症例による演習を実施することで、総合評価ができるよう工夫した。
2. 臨床栄養学Ⅲ・Ⅳ	2015年4月	各疾患の病態、栄養状態の評価、判定、栄養ケアプラン作成、栄養補給法、栄養食事療法の立案、栄養診断は、演習を導入し、理解力を深めた。また、各章終了ごとに確認プリントおよび国家試験対策問題例を配布。学生の授業内容での理解度確認、理解しなかった内容は再講義を実施し理解力の向上を図った。同時に講義内容での漏れがないかを再確認し、講義内容の充実をも図った。
3. 臨床栄養学実習 I	2015年4月	患者摂取量把握には、フードモデルによる使用材料、量の推察、学生同志での食事聞き取り調査を実施。聞き取り調査時のマナーのみならず、聞き漏らしやすい食品、調味料、量把握などの問題点を習得することで栄養教育に活かせるよう図る。ロールプレイングによる在宅栄養教育、病棟訪問は、患者、家族への話し方、接し方、マナーなどを習得、体得できるよう工夫した。数段階に分けて作成したPEG食、ソフト食、嚥下食の粘度は、経口前と胃の中に入ってからどのような形態を維持できているのか人工胃液を用い、肉眼で見ることで正しい粘度の食事を作成する必要性を理解しやすいよう工夫した。また、体感装具を用い、学生自身が傷病者がもつ問題点の発掘、補助の仕方などを考え、遂行する方法を模索できるようにもした。
4. 臨床栄養学実習 II	2015年4月	治療献立の作成、臨床調理実習により量、見た目、味、栄養量、調理手順、手間など多方面からの評価および講評を実施し、臨床現場での献立作成時には何を考慮すべきか習得する。臨床栄養指導は、肝硬変非代償期、透析症例に対するロールプレイングを導入。学生が模擬患者に対する指導後、態度、話し方、指導内容等問題点を挙げ協議し、栄養カルテを作成。模擬栄養指導と通じては、医療職としてチーム医療を進める上での心得、態度、コミュニケーションスキルおよび患者、家族の立場に立った実践可能な臨床栄養教育はどうあるべきか体得、習得が容易にできるよう図った。
5. 臨床栄養学実習 I	2014年	患者摂取量把握には、フードモデルによる使用材料、量の推察、学生同志での食事聞き取り調査を実施。聞き取り調査時のマナーのみならず、聞き漏らしやすい食品、調味料、量把握などの問題点を習得することで栄養教育に活かせるよう図る。ロールプレイングによる在宅栄養教育、入院患者訪問は、患者、家族への話し方、接し方、マナーなどを習得、体得できるよう工夫した。数段階に分けて作成したPEG食、ソフト食、嚥下食の粘度は、経口前と胃の中に入ってからどのような形態を維持できているのか人工胃液を用い、肉眼で見ることで正しい粘度の食事を作成する必要性を理解しやすいよう工夫した。また、体感装具を用い、学生自身が傷病者がもつ問題点の発掘、補助の仕方などを考え、遂行する方法を模索できるようにもした。
6. 臨床栄養学Ⅲ・Ⅳ	2014年	各疾患の病態、栄養状態の評価、判定、栄養ケアプラン作成、栄養補給法、栄養食事療法の立案は、演習を導入し、理解力を深めた。また、各章終了ごとに確認プリントおよび国家試験対策問題例を配布。学生の授業内容での理解度確認、理解しなかった内容は再講義を実施し理解力の向上を図った。同時に講義内容での漏れがないかを再確認し、講義内容の充実をも図った。
7. 臨床栄養学実習 II	2014年	治療献立の作成、臨床調理実習により量、見た目、味、栄養量、調理手順、手間など多方面からの評価および講評を実施し、臨床現場での献立作成時には何を考慮すべきか習得する。臨床栄養指導は、肝硬変非代償期、透析症例に対するロールプレイングを導入。学生が模擬患者に対する指導後、態度、話し方、指導内容等問題点を挙げ協

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
8. 臨床栄養学 I	2014年	<p>議し、栄養カルテを作成。模擬栄養指導と通じては、医療職としてチーム医療を進める上での心得、態度、コミュニケーションスキルおよび患者、家族の立場に立った実践可能な臨床栄養教育はどうあるべきか体得、習得が容易にできるよう図った。</p> <p>栄養アセスメントは、症例を用いた演習を導入し、個人が実践することで、算出方法、算出した数値の使い方などをよりスムーズに理解し、習得できるよう図った。また、栄養補給法では、人体モデルを活用し、挿入方法、ルートなどの確認を容易とした。疾患別栄養管理は、症例による演習を実施することで、総合評価ができるよう工夫した。</p>
9. 臨床栄養学 I	2013年	<p>臨床情報の収集と栄養スクリーニングは、症例によるSGA, ODAを学生個人が実施し、その評価、判定を行うことでよりスムーズに理解し、習得できるよう図った。理解を深めた。また、栄養補給法は、人体模型、モデルを活用し、挿入方法、ルートなどの確認を容易とした。</p>
10. 臨床栄養学Ⅲ・Ⅳ	2013年	<p>各疾患の病態、栄養状態の評価、判定、栄養ケアプラン作成、栄養補給法、栄養食事療法の立案は、模擬症例を導入し、実践することで理解しやすいよう図った。また、各章終了ごとに確認プリントおよび国家試験対策問題例を配布。学生の授業内容での理解度確認、理解しなかった内容は再講義を実施し理解力の向上を図った。同時に講義内容での漏れがないかを再確認し、講義内容の充実をも図った。</p>
11. 臨床栄養学実習 I	2013年	<p>数段階に分けて作成したPEG食、ソフト食、嚥下食の粘度は、経口前と胃の中に入れてからどのような形態を維持できているのか人工胃液を用い、肉眼で見ることで正しい粘度の食事を作成する必要性を理解しやすいよう工夫した。また、体感装具を用い、学生自身が傷病者がもつ問題点の発掘、補助の仕方などを考え、遂行する方法を模索できるようにもした。</p>
12. 臨床栄養学実習 II	2013年	<p>臨床栄養指導は、フードモデル、栄養剤、治療用特殊食品を活用したロールプレイを導入。学生が模擬患者に対する指導後、態度、話し方、指導内容等問題点を挙げ協議し、栄養カルテを作成。模擬栄養指導と通じては、医療職としてチーム医療を進める上での心得、態度、コミュニケーションスキルおよび患者、家族の立場に立った実践可能な臨床栄養教育はどうあるべきか体得、習得が容易にできるよう図った。</p>
13. 臨床栄養学実習 I	2012年	<p>数段階に分けて作成したPEG食、ソフト食、嚥下食の粘度は、経口前と胃の中に入れてからどのような形態を維持できているのか人工胃液を用い、肉眼で見ることで正しい粘度の食事を作成する必要性を理解しやすいよう工夫した。また、体感装具を用い、学生自身が傷病者がもつ問題点の発掘、補助の仕方などを考え、遂行する方法を模索できるようにもした。</p>
14. 臨床栄養学Ⅲ・Ⅳ	2012年	<p>各章終了ごとに確認プリントおよび国家試験対策問題例を配布。学生の授業内容での理解度確認、理解しなかった内容は再講義を実施し理解力の向上を図った。同時に講義内容での漏れがないかを再確認し、講義内容の充実をも図った。</p>
15. 臨床栄養学 I	2012年	<p>栄養アセスメントの講義においては、症例を用いた演習を導入し、個人が実践することで、算出方法、算出した数値の使い方などをよりスムーズに理解し、習得できるよう図った。また、栄養補給法においては、モデルを活用し、挿入方法、ルートなどの確認を容易とした。</p>
16. 臨床栄養学実習 II	2012年	<p>臨床栄養指導は、フードモデルを活用したロールプレイを導入。学生が模擬患者に対する指導後、態度、話し方、指導内容等問題点を挙げ協議し、栄養カルテを作成。患者、家族の立場に立った実践可能な臨床栄養教育はどうあるべきか体得、習得が容易にできるよう図った。</p>
17. 臨床栄養学Ⅲ・Ⅳ	2011年	<p>各章終了ごとに確認プリントを配布。学生の授業内容理解力の確認、理解しなかった内容は再講義を実施し理解力の向上を図った。同時に講義内容での漏れがないかを再確認し、講義内容の充実をも図った。</p>
18. 臨床栄養学実習 II	2011年	<p>臨床栄養指導は、フードモデルを活用したロールプレイを導入。学生が症例指導後、態度、話し方、指導内容等問題点を挙げ協議。患者、家族の立場に立った臨床栄養教育はどうあるべきか体得、習得が容易にできるよう図った。</p>
19. 臨床栄養学実習 I	2011年	<p>数段階に分けて作成したPEG食、嚥下食の粘度は、経口前と胃の中に入れてからどのような形態を維持できているのか人工胃液を用い、肉眼で見ることで正しい粘度の食事を作成する必要性を理解しやすいよう工夫した。</p>
20. 臨床栄養学 I	2011年	<p>栄養アセスメントの講義においては、症例を用いた演習を導入し、個人が実践することで、算出方法、算出した数値の使い方などをよりスムーズに理解し、習得でき</p>

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
21. 臨床栄養学 I	2010年	るよう図った。 栄養アセスメントの講義においては、症例を用いた演習を導入し、個人が実践することで、算出方法、算出した数値の用い方などをよりスムーズに理解し、習得できるよう図った。
22. 臨床栄養学Ⅲ・Ⅳ	2010年	学生をグループ化し学んだ疾患の栄養ケアの目的・計画・実施・評価にまとめ書画にて発表を実施。学生間討論、理解困難であった点の解消を図り、講義担当者も講義展開方法の問題点把握を今後へ活かせるよう努めた。
23. 臨床栄養学実習Ⅱ	2010年	臨床栄養指導は、フードモデルを活用したロールプレイを導入。学生が症例指導後、態度、話し方、指導内容等問題点を挙げ協議。患者、家族の立場に立った臨床栄養教育はどうあるべきか体得、習得が容易にできるよう図った。
24. 臨床栄養学実習Ⅰ	2010年	数段階に分けて作成したPEG食、嚥下食の粘度は、経口前と胃の中に入ってからどのような形態を維持できているのか人工胃液を用い、肉眼で見ることによって正しい粘度の食事を作成する必要性を理解しやすい工夫した。
2 作成した教科書、教材		
1. 改訂 臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理	2016年9月15日	臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱにおいて学生が、疾患別、ライフステージ別の栄養アセスメントのポイントを的確に評価し、栄養ケアプラン作成までが容易にできるよう、フローチャート別に記載した。今回は国際標準化のための栄養ケアプロセスを導入し、栄養カルテの書き方につき解説を加えた。
2. 三訂 臨床栄養管理[第2版]	2015年3月	理栄養士国家試験改訂ガイドラインに対応させた80以上の疾患について「病態・生理生化学」「栄養ケア・マネジメント」に分けて記載。栄養治療の専門家および多様化する要求や各分野の進歩に対応する知識、技術を習得し、保険、医療、福祉システムの中で他の専門職者と強調しつつ、自らの役割と責任を担う心構えを学習するための教材として作成した。臨床栄養学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳに使用した。
3. 症例から学ぶ 臨床栄養教育	2015年3月	本書は、臨床での栄養教育をイメージし、実践演習にむけて、症例を解説し栄養食事指導の展開を示し、カルテを読むことができ、栄養状態、栄養補給、栄養教育などの臨床現場での実践に対応した学生向けの演習書である。 NST実践論、臨床栄養学Ⅲ・Ⅳの症例として活用。
4. 臨地実習マニュアル [臨床栄養学]	2014年10月	臨床栄養学実習の中で、主に臨地実習時に知っておくべき施設の特徴や実習内容、病院給食管理について講義する際にして活用。
5. 臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理 第2版	2014年04月	臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱにおいて学生が、疾患別、ライフステージ別の栄養アセスメントのポイントを的確に評価し、栄養ケアプラン作成までが容易にできるよう、フローチャート別に記載した。今回はフローチャートを180分から130分へ変更し、法規、ガイドライン改正に伴う訂正加筆を実施し、解答・解説DWを作成した。
6. 症例から学ぶ 臨床栄養教育 テキスト 増補	2013年3月	本書は、臨床での栄養教育をイメージし、実践演習にむけて、症例を解説し栄養食事指導の展開を示し、カルテを読むことができ、栄養状態、栄養補給、栄養教育などの臨床現場での実践に対応した学生向けの演習書である。
7. 三訂 臨床栄養管理	2012年11月	理栄養士国家試験改訂ガイドラインに対応させた80以上の疾患について「病態・生理生化学」「栄養ケア・マネジメント」に分けて記載。栄養治療の専門家および多様化する要求や各分野の進歩に対応する知識、技術を習得し、保険、医療、福祉システムの中で他の専門職者と強調しつつ、自らの役割と責任を担う心構えを学習するための教材として作成した。臨床栄養学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳに使用した。
8. 臨床栄養学概論一病態生理と臨床栄養管理を理解するために一	2011年10月	図表を多く用いて専門用語も丁寧に平易な記述とし、各章ごとの重要ポイントは『章のまとめ』、『キーワード』を掲載。初めて臨床栄養学を学ぶ学生でも、理解しやすい内容にまとめた。臨床栄養学Ⅰの講義で使用。
9. 絵で見て使える 栄養指導教材集	2011年05月	外来・入院時での栄養食事指導を容易に行えるよう、必要資料を実物大にて掲載し、コピーして患者にそのまま渡せる新しい形の栄養食事指導の教材集を作成。臨床栄養学Ⅲ・Ⅳの疾患別栄養食事指導時のツールとして活用。
10. すぐに役立つ栄養指導マニュアル	2011年05月	ベッドサイド、在宅での実践栄養食事指導を26病態別に実践的に、栄養食事指導時に使用する食品構成例を提示し、必要指導媒体につき解説した。臨床栄養学Ⅲ・Ⅳの疾患別栄養教育で活用。
11. 臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理	2011年04月	臨床栄養学実習において学生が、疾患別、ライフステージ別の栄養アセスメントのポイントを的確に評価し、栄養ケアプラン作成までが容易にできるよう、フローチャート別に記載した。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
12. 臨地実習ガイドブック	2011年02月	本学の大学・短期大学部全ての臨地実習に対応可能な内容とした。また、各施設における具体的な実習スケジュールや課題の取り組みを実例で示し、学生がイメージしやすいように、できるだけ具体的な内容を記述した。
13. 症例から学ぶ 臨床栄養教育 テキスト	2011年02月	カルテを読むことができ、栄養状態、栄養補給、栄養教育などの栄養管理能力を有する管理栄養士になるための実践的演習テキストである。
14. 臨床栄養学管理－栄養ケアとアセスメント－	2009年12月	栄養治療の専門家および多様化する要求や各分野の進歩に対応する知識、技術を習得し、保険、医療、福祉システムの中で他の専門職者と強調しつつ、自らの役割と責任を担う心構えを学習するための教材として作成した。
15. 栄養食事療法シリーズ2：たんぱく質コントロールの栄養食事療法肝臓疾患（慢性肝炎、肝硬変）	2009年03月	臨床栄養学Ⅳでの肝疾患の項において主に栄養教育法および献立作成時に活用。
16. 栄養指導教材集	2007年04月	臨床栄養学Ⅲ・Ⅳにおける疾患別の臨床栄養教育方法を具体的に学ぶにあたり教材集を指導媒体として活用。
17. 症例から学ぶ臨床栄養教育テキスト－虚血性心疾患－	2006年11月	臨床栄養学Ⅳの講義の中で「心疾患」の項において活用。
18. 栄養教育・指導論	2005年11月	臨床栄養学Ⅲ・Ⅳでの各疾患ごとにおける臨床栄養教育方法について解説する際に活用。
19. 臨床実習マニュアル－臨床栄養学－	2005年04月	臨床栄養学実習の中で、主に臨地実習時に知っておくべき施設の特徴や実習内容、病院給食管理について講義する際に活用。
20. 臨床栄養管理－栄養ケアとアセスメント－	2003年04月	臨床栄養学の講義・実習において活用。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. サプリメントアドバイザー	2002年04月	
2. 糖尿病療養指導士	2000年04月	
3. 管理栄養士	1980年09月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. コンパクト栄養学	共	2017年9月1日	南江堂	久保田俊一郎 寺本房子 編著 高岸和子他 栄養学の摂取と体内における代謝を軸として、その機能やもたらされるエネルギー代謝も理解できるよう配慮。また、必要な物質の構造式や酵素に関しては、適切な図を用いることで文章はなるべく簡単にわかりやすいものとした。臨床栄養学領域の内容も充実させ、将来学生が実際に臨床の場で働く際に活用できる知識が身に付くように仕上げた。
2. 改訂 臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理	共	2016年9月15日	建帛社	中村富予 高岸和子 編著 臨床栄養管理を実践する力を身につけるためには、栄養管理の手順に沿ったマネジメントを学ぶ必要がある。実習に際して学生たちが栄養ケアの一連のながれを理解を容易とするためにも、栄養管理をフローチャート形式で、順序立てて構成したテキストを作成した。
3. 症例から学ぶ 臨床栄養教育テキスト 第3版	共	2016年4月1日	医歯薬出版株式会社	本田圭子, 松崎政三, 高岸和子他 カルテを読むことができ、栄養状態、栄養補給、栄養教育などの栄養管理能力を有する管理栄養士になるための実践的演習テキストである。主に虚血性心疾患の症例を担当した。
4. 改訂 臨地実習ガイドブック	共	2016年2月1日	建帛社	前田佳予子 高岸和子編著 本学の臨地実習（短大：給食の運営、大学3年：給食経営管理、大学4年臨床栄養学と保健業務）に対応可能な内容とした。また、各施設における具体的な実習スケジュールや課題の取り組みを実例で示し、学

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
5. 症例から学ぶ 臨床栄養教育テキスト 第2版	共	2015年3月20日	日本医歯薬出版株式会社	生がイメージしやすいように、できるだけ具体的な内容を記述した。 本田圭子, 松崎政三, 高岸和子他 カルテを読むことができ、栄養状態、栄養補給、栄養教育などの栄養管理能力を有する管理栄養士になるための実践的演習テキストである。主に虚血性心疾患の症例を担当した。
6. 新しい臨床栄養管理 第3版	共	2015年2月20日	医歯薬出版株式会社	渡邊早苗, 寺本房子, 笠原賀子, 松崎政三 編 高岸和子 食事栄養療法の実際では、高血圧症、心疾患患者の症例検討、集団栄養教育の実際では、高血圧と脂質異常症に対する目的と意義、留意点と具体的な指導方針、プログラム構成方法、タイムテーブルを提示し解説した。
7. 三訂 臨床栄養管理 [第2版]	共	2015年2月20日	建帛社	渡邊早苗, 寺本房子, 松崎政三 編著 岩本珠美, 恩田理絵, 片山一男, 鞍田三貴, 高岸和子, 武部久美子, 田中弥生, 角田伸代, 戸田洋子, 富岡加代子, 外山健二, 中西靖子, 長浜幸子, 増田昭二 栄養治療の専門家として必要な知識や技術を習得し、基礎的能力と社会の変化に伴い多様化する要求や各分野の進歩に対応する新しい知識、技術の開発に貢献できる能力さらに保険、医療、福祉システムの中で他の専門職の人々を強調しつつ、自らの役割と責任を担う心構えを学習するための教材として作成した。
8. 臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理	共	2014年4月10日	建帛社	中村富予 高岸和子 編著 臨床栄養管理を実践する力を身につけるためには、栄養管理の手順に沿ったマネジメントを学ぶ必要がある。実習に際して学生たちが栄養ケアの一連のながれを理解を容易とするためにも、栄養管理をフローチャート形式で、順序立てて構成したテキストを作成した。
9. 臨地実習マニュアル『臨床栄養学』 第5版	共	2014年10月	建帛社	足立加世子, 荒木順子, 恩田理恵, 川田順, 金胎芳子, 高岸和子, 富岡加代子, 中西靖子, 長浜幸子, 名倉秀子, 新田早見, 藤本真美子 医療・介護老人保健施設における隣地実習施設の特徴や実習すべき内容について、栄養教育のテクニックをどのように学習すべきか解説した。
10. 臨床栄養学概論一病態生理と臨床栄養管理を理解するために	共	2013年4月	株式会社 化学同人	秋山栄一, 位田忍, 鞍田三貴, 鈴木一永, 高岸和子, 福田也寸子, 古澤通生, 蓬田健太郎 本書は、臨床栄養学を初めて学ぶ学生に対して病態生理と臨床栄養管理を容易に理解できるよう図表を巧みに活用し、各項にはワンポイントアドバイスや豆知識を加えた。
11. 症例から学ぶ臨床栄養教育テキスト	共	2013年3月5日	医歯薬出版株式会社	本田圭子, 松崎政三, 高岸和子他 栄養教育を臨床現場での実践に対応した学生向けの演習書として、臨床での栄養教育をイメージし、実践演習に向けて、症例を解説し栄養指導の展開方法を示した。
12. 三訂臨床栄養管理	共	2012年11月30日	建帛社	渡邊早苗, 寺本房子, 松崎政三, 岩本珠美, 恩田理絵, 片山一男, 鞍田三貴, 高岸和子, 武部久美子, 田中弥生, 戸田洋子, 富岡加代子, 外山健二, 中西靖子, 長浜幸子, 増田昭二 栄養治療の専門家として必要な知識や技術を習得し、基礎的能力と社会の変化に伴い多様化する要求や各分野の進歩に対応する新しい知識、技術の開発に貢献できる能力さらに保険、医療、福祉システムの中で他の専門職の人々を強調しつつ、自らの役割と責任を担う心構えを学習するための教材として作成した。
13. 臨床栄養学概論一病態生理と臨床栄養管理を理解するために	共	2011年10月	株式会社 化学同人	秋山栄一, 位田忍, 鞍田三貴, 鈴木一永, 高岸和子, 福田也寸子, 古澤通生, 蓬田健太郎 本書は、臨床栄養学を初めて学ぶ学生に対して病態生理と臨床栄養管理を容易に理解できるよう図表を巧みに活用し、各項にはワンポイントアドバイスや豆知識を加えた。
14. 絵で見て使える 栄養指導教材集 改訂3版	共	2011年05月	日本栄養企画	中村丁次, 松崎政三, 川島由紀子 高岸和子 編著 外来・入院時における栄養食事指導を容易に行えるよう、必要資料を実物大にて掲載することで、コピーして患者にそのまま渡せる新しい形の栄養食事指導の教材(資料)集を作成した。
15. すぐに役立つ 栄養指導マニュアル 改訂3版	共	2011年05月	日本医療企画	中村丁次, 松崎政三, 宮本佳代子, 高岸和子 ベッドサイド、在宅での実践栄養食事指導を26病態別に実践的に、栄養食事指導時に使用する食品構成例を提示し、必要指導媒体につき解説した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
16. 臨床栄養学実習 フローチャート で学ぶ臨床栄養管理	共	2011年04月	建帛社	中村富予 高岸和子 編著 臨床栄養管理を実践する力を身につけるためには、 栄養管理の手順に沿ったマネジメントを学ぶ必要が ある。実習に際して学生たちが栄養ケアの一連のな がれを理解を容易とするためにも、栄養管理をフ ローチャート形式で、順序立てて構成したテキストを 作成した。
17. 症例から学ぶ 臨床栄養教育 テ キスト 増補	共	2011年02月	医歯薬出版株式会社	本田圭子, 松崎政三, 高岸和子他 カルテを読むことができ、栄養状態、栄養補給、栄 養教育などの栄養管理能力を有する管理栄養士にな るための実践的演習テキストである。主に虚血性心 疾患の症例を担当した。
18. 臨地実習ガイドブック	共	2011年02月	建帛社	前田佳予子 高岸和子編者 本学の臨地実習(短大:給食の運営, 大学3年:給食 経営管理, 大学4年臨床栄養学と保健業務)に対応 可能な内容とした。また、各施設における具体的な実 習スケジュールや課題の取り組みを実例で示し、学 生がイメージしやすいように、できるだけ具体的な 内容を記述した。
19. NSTのための臨床栄養タブレット 周術期とクリティカルケア	共	2010年2月	文光堂	雨海照祥, 高岸和子, 脇田真季 本書は、周術期とクリティカルケアの栄養管理(主 に肝臓病と腎臓病)に必要な基礎的な病態の解説と 症例提示による具体的な栄養管理法につき解説。コ ラムにて補足的説明を行った。
20. 新しい臨床栄養管理	単	2010年02月	医歯薬出版株式会社	高岸和子 食事栄養療法の実際 では、高血圧症、心疾患患者の症例検討、 集団栄養食事指導の実際では、高血圧と脂質異常症 に対する目的と意義、留意点と具体的な指導方針、 プログラム構成方法、タイムテーブルを提示し解説 した。
21. 栄養食事療法シリーズ2:たんば く質コントロールの栄養療法:肝 臓疾患	共	2009年03月	建帛社	高岸和子, 田中明 本書は、栄養食事療法についての考え方、食事計画 が自分でできるようになるために必要な学習内容を 盛り込み、個々人に適した食事計画、料理のバリエ ーションごとに、栄養量や調理法のポイントが学べ るようにした。
22. Q & Aで学ぶ栄養療法と薬剤管理 : 消化器疾患	共	2008年07月	南山堂	雨海照祥, 脇田真季, 山下祥子, 高岸和子 本書は、医師・看護師・管理栄養士・薬剤師、さま ざま立場から栄養療法および薬剤管理に関する知 識をわかりやすく、最新情報を加味し、栄養療法の 基礎知識についてKey pointを、Chapter9の各病態 で栄養療法および栄養に関するQ&Aを載せた、より 理解しやすい内容とした。
23. 臨床栄養治療の実践 病態別編: 甲状腺	共	2008年05月	金原出版	雨海照祥, 高岸和子 栄養治療の実践に携わるスタッフは、標準化された 知識や技能を習得した上で、栄養管理を行わなけれ ばならない。本書は、臨床栄養に携わるNSTスタ ッフが知っておくべき医学栄養学の基本的な知識の 把握とより分かりやすく実践を踏まえて解説をした 。
24. 症例から学ぶ臨床栄養教育テキス ト	単	2008年04月	医歯薬出版株式会社	高岸和子 2006年に初版、各学会のガイドライン変更に基づき 、訂正、加筆を行った。栄養教育を臨床現場での実 践に対応した学生向けの演習書として、臨床での栄 養教育をイメージし、実践演習に向けて、症例を解 説し栄養指導の展開方法を示した。
25. 絵でみて使える栄養指導教材集	共	2007年04月	日本医療企画	中村丁次、松崎政三、川島由紀子、高岸和子 適正な食生活や食事療法を人々に理解してもらう事 は大変難しく、「教育する者が思っている程、教育 を受ける人は理解していない」という考えて誤りな いと言われている。栄養に関する基礎知識が少ない 人達に、正しい栄養のあり方を修得させるには、「 栄養教育のための分かりやすい教育媒体の開発」が栄 養教育実施上で重要なテーマである。本書は臨床現 場で容易に活用できる病態やライフステージ別とし て最新のデータを加味し作成した。
26. 症例から学ぶ臨床栄養教育テキス ト:虚血性心疾患	共	2006年11月	医歯薬出版株式会社	本田桂子, 松崎政三, 高岸和子他 栄養教育を臨床現場での実践に対応した学生向けの 演習書として、臨床での栄養教育をイメージし、実 践演習に向けて、症例を解説し栄養指導の展開方法 を示した。
27. 栄養教育・指導論	共	2005年11月	建帛社	瓦家千代子、桑野稔子、高岸和子、林辰美、久岡文 子、宮原公子、向井潤子 管理栄養士業務の役割を理解し、業務の中でも主要 な役割をもつ栄養教育のあり方を疾患別に整理し解 説した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
28. 臨地実習マニュアル：臨床栄養学	共	2005年04月	建帛社	足立加世子、荒木順子、恩田理恵、川田順、金胎芳子、高岸和子、富岡加代子、中西靖子、長浜幸子、名倉秀子、新田早見、藤本真美子 医療・介護老人保健施設における隣地実習施設の特徴や実習すべき内容について、栄養教育のテクニックをどのように学習すべきか解説した。
29. 臨床栄養管理—栄養ケアとアセスメント	共	2003年04月	建帛社	渡邊早苗、松崎政三、寺本房子、稲山貴代、大和田浩子、恩田理絵、鞍田三貴、高岸和子、田中弥生、堂園美奈、豊岡加代子、外山健二、中西靖子、長浜幸子、吉田美津子 栄養治療の専門家として必要な知識や技術を習得し、基礎的能力と社会の変化に伴い多様化する要求や各分野の進歩に対応する新しい知識、技術の開発に貢献できる能力さらに保険、医療、福祉システムの中で他の専門職の人々を強調しつつ、自らの役割と責任を担う心構えを学習するための教材として作成した。
30. 臨床栄養管理 栄養ケアとアセスメント	共	2003年02月	建帛社	渡邊・松崎・寺本・稲山・岩岡・恩田・鞍田・高岸・田中・堂園・富岡・外山・中西・長浜・吉田 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について修得することを教育目標とした。栄養治療の専門職として必要な知識や技術を習得し、基礎的能力と社会の変化に伴い多様化する要求や各分野の進歩に対応する新しい知識、技術の開発に貢献できる能力、さらに、保健、医療、福祉システムの中で他の専門職の人々と強調しつつ、自らの役割と責任を担う心構えを学習するための教材として作成した。担当（PP. 186～194）
31. 症例から学ぶ病態栄養学	共	1999年07月	メディカル・レビュー社	星野・荒川・井頭・中嶋・熊代・加藤・宮下・奥村・佐藤・丸山・土江・田中・中野・小松・白井・加藤・荒木・田辺・斉藤・川上・高岸・沖田・村尾・福井・山下・本田・住田・白井・豊里・武政・永石・金澤・川田・森・富岡・太田・戸田・小野・一色・梅島・奥・武部 個々の症例で得られた栄養・代謝情報をどう読み、役立て、治療していくのか患者様に前にした迅速な解答が求められている。これから臨床に役立つ管理栄養士を目指す若い管理栄養士が病態栄養をトレーニングし、卒後研修に役立ててもらえる様、臨床現場で働く管理栄養士が疾患別に症例を挙げて栄養状態を適正に評価し、それに基づいた栄養治療の経過などを記述した。担当（PP. 208～220）
32. 治療食メニューの作り方・考え方—糖尿病と合併症—	共	1999年06月	ヴァンメディカル	野村・中嶋・高岸・石井・長井・洲上・中西・植田・岡田・井上・藤井・吉田・豊原・梅島・定金・長谷川・守谷・福山・片木・原越・石庭・前田・奥村・土江・今村・渡邊・田中・井上・南野・大野・小泉・豊里・松下・中村・山下・緒 糖尿病ならびに種々の合併症を併発した際の食事療法を円滑に進めるために、病態を簡潔に理解した上で食事療法をどのように考えるか、具体的メニュー作成方法、食品の選択の方法、栄養管理、栄養指導の方法に関するノウハウを明確に伝達することを目的として作成した。担当（PP. 33～37, PP. 82～83, P P. 114～115）
33. 私の栄養指導法	単	1998年05月	臨床栄養 Vol. 92 (6) 617～619	高岸和子 栄養指導対象の把握と動機づけ、栄養指導内容と方法（栄養・食生活診断、肝臓の働きと役目、栄養指導の計画、栄養指導の実施）栄養指導のポイント、栄養指導の評価、継続指導のコツ、医療スタッフとの連携指導について肝炎をテーマにまとめた。
34. 絵で見て使える栄養指導教材集	共	1995年11月	日本医療企画	中村丁次・松崎政三・川崎美由紀・高岸和子 適正な食生活や食事療法を一般の人々に理解してもらおう事は大変難しく、「教育する者が思っている程、教育を受けた人は理解していない」と考えて誤りがないと言われている。栄養に関する基礎知識がない人達に、正しい栄養のあり方を修得させるには、「栄養教育のためのわかりやすい教育媒体の開発」が栄養指導を行う上で重要なテーマである。本書は著者が勤める病院で実際にしようしている物をベースに病態やライフステージに関する事を追加し、最新のデータを加えて作成した。担当（PP. 66～151, PP. 200～202）
35. 適温の工夫・適温の献立	単	1995年09月	臨床栄養 Vol. 87 (4) 479, 496, 508	高岸和子 保温・保冷（常温） 配膳車を使用した献立例を挙げて、調理方法および

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
36. 栄養管理	共	1995年01月	病院レストラン 3、 4巻 1～12号 3巻 4-12号 4巻 1 -3号	調理メモ、適温への工夫（メニュープラン、食器、準備・下ごしらえ・調理、盛り付け、保温食器使用時の配慮、メニュー変更と温・冷（常）区分についてまとめた。 高岸和子 三本柱とも言える一般食および治療食の食事管理、グループ・個別・入院患者の栄養指導、管理栄養士が行うべき栄養評価としての問診・調査・観察・栄養素摂取量調査・身体計測の個々における栄養管理の考え方についてを12回連載で記述した。担当（PP. 30）Vol. 3 No. 4-12 Vol. 4 No. 1-3
37. 評価のできる栄養教育に向けて	共	1993年11月	プラクティス 10巻 6号	高岸和子 栄養教育に実践に向けて、糖尿病患者教育システムの確立、栄養指導教材の開発、今後の課題、医療スタッフ共通のカルテ記載方法としてのPOSの具体化についてを、SATELLITE ROOMの栄養指導室の立場からまとめた。担当（PP. 551）Vol. 10 No. 6
38. 病院給食 一食献立集 栄養成分別コントロール食への展開	共	1993年05月	臨床栄養 82巻 6号	高岸和子 栄養成分別管理における各コントロール食への展開をどう考えるかをテーマに基本献立における一食献立を作成し、エネルギーコントロール食、たんぱく質コントロール食、脂質コントロール食への展開方法についてまとめた。担当（PP. 618～619, PP. 704～707）Vol. 82 No. 6
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 2型糖尿病患者の栄養教育問題-栄養教育問題の変化と食事療法遵守の継続困難な要因-（第1報）（査読付）	共	2017年7月	日本臨床栄養学会雑誌 Vol139(2) 151-165	高岸和子 奥田豊子 玉置まどか 丸田達也 倭 英司 糖尿病患者の栄養教育問題の変化と食事療法遵守の継続困難な要因を知るために、栄養教育を実施した患者の初回時から3年後までの栄養カルテを後ろ向きに検討した。栄養教育問題は、栄養素等摂取量、食生活習慣、食環境要因、社会的背景に分け、特徴および何が家庭での食事療法遵守の継続困難な要因となるかを検討した。対象は、2型糖尿病と診断後、個人栄養教育を3年間継続し、薬物療法未実施の101例（男48例、女53例）とした。栄養教育問題は、問題毎に該当者の割合の経時変化と3年後の問題有無によるHbA 1cの3年間における改善率を比較した。HbA 1cを従属変数とし、栄養素等摂取量、栄養教育問題等、を独立変数とした重回帰分析を行った。遵守の継続困難な要因（HbA 1cの改善を抑制している）は、①嗜好食品（男性の飲酒習慣、女性の間食習慣）、②男性の夕食偏重、③主食摂取量不足、④食塩摂取量過剰、⑤男性の夕食、⑥日常活動量低下、⑦独居と推測した。血糖コントロールを良好に保ち合併症の発症予防には、本研究で明らかとなった食事療法遵守の継続困難な要因となる習慣を是正、改善していくことが重要である。
2. 糖尿病栄養食事記録からみたヘモグロビンA1c（HbA1c）に影響する要因（査読付）	共	2013年12月	日本臨床栄養学会雑誌 Vol. 35(4) 229-2033	高岸和子 奥田豊子 松崎政三 玉置まどか 丸田達也 初めて糖尿病栄養食事指導を受講した437例（男性229例、女性208例）を対象に、患者の栄養食事記録中のプロブレムを相互関係の深い項目毎に食生活習慣、栄養素等摂取量過不足、食環境因子、社会的背景の4群に分け、性差、体格差、年齢差が与える影響性を検討した。さらには、糖負荷後2時間血糖値と臨床検査値、4群との関連性についてパス解析を用いて検討した。 抽出された問題のプロブレムは、飲酒習慣、間食習慣、夕食偏重、炭水化物摂取不足、たんぱく質過不足摂取、脂質摂取過剰、食塩摂取過剰、食物繊維摂取不足の9項目であった。 パス解析では、食生活習慣、栄養素等摂取量、食環境の3項目が、社会的環境、動脈硬化を進展する臨床検査値の1因子と1項目を介して糖負荷後2時間血糖値に間接的に影響していることが明らかになった。また、総合効果は、直接効果では一番低かった栄養素等摂取量が糖負荷後2時間血糖値に影響を与えることが明らかともなった。 以上の結果から、食生活（甘味や塩味に対する嗜好性、動物性脂肪の過剰摂取）、不活発な日常活動の修正は、耐糖能異常発症を予防するために重要であることが示唆された。
3. 食物アレルギー患児の食QOL向上への取り組み（査読付）	共	2012年2月	武庫川女子大学紀要（自然科学）60 17-28	奥村友香 高岸和子 本研究では、幼児期の即時型食物アレルギーの主な原因である鶏卵、小麦、乳製品を除去し、特殊食品を用いずとも作成可能なおやつを考案し、実用化へ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
4. 耐糖能異常者の食生活	単	2011年09月	肥満と糖尿病 Vol.10 (6) 871-873	<p>高岸和子</p> <p>高岸和子 人間ドック受診後初めて耐糖能異常と診断された50歳代男性412例を対象とし、運動習慣、栄養素等摂取量、嗜好食品の食歴、生活習慣の要因などを分析。結果は若い頃からの甘味に対する嗜好性、飽和脂肪酸の摂取過剰、日常生活不足、筋肉量低下は、糖負荷後時間値を直接上昇させることが分かり、糖尿病に移行させないためにもこれらにポイントを絞った栄養教育の必要性を示唆した。</p>
5. 高血糖と食歴	単	2011年08月	健康365	<p>高岸和子</p> <p>高岸和子 人間ドックで初めて高血糖を指摘された412名の食生活内容の分析結果は、スナック菓子、清涼飲料水、アルコール摂取量が極端に多く、食事はまとめ食べ、早食い、夕食偏重を示した。特にアルコールと間食は20代、30代、40代、50代と年代と共に増加傾向を示し、問題となる食べ方も若い頃から続いていた。早めの食生活改善が糖尿病移行を抑える有効な手段であり、問題となる食習慣に是正はドックセンターでの栄養教育の実施が望まれる。</p>
6. 高血糖と食生活習慣	単	2011年08月	健康365	<p>高岸和子</p> <p>高岸和子 4年間の大規模調査で高血糖の人は不規則な食事（夕食は血糖値は正常な人と変わらないが、夕食の間食・夜食をとる習慣がある、夕食偏重、最終食事時間から眠前までの時間が極端の短い、朝食欠食etc.）や外食・偏食が多いことが判明。糖尿病に進展させないためにも、血糖値が高いと指摘された段階からの積極的な栄養介入が望まれる。</p>
7. 誤嚥性肺炎を繰り返す患者に対するコーチング・コミュニケーションを用いた栄養管理（査読付）	共	2011年03月	日本臨床栄養学雑誌 Vol.32 (3) 167-175	<p>玉置まどか、高岸和子 下咽頭部切除・喉頭半切除および舌部左側切除術後発症した嚥下障害で誤嚥性肺炎を繰り返していた76歳症例の栄養補給法を経腸栄養法から経口栄養法へ以降するにあたり、自発的行動を促すコーチング技法を導入し、栄養管理・教育の充実を図った。</p>
8. 50歳代男性の耐糖能異常者における糖負荷試験後の血糖値に影響する食生活・生活習慣の要因（査読付）	共	2010年06月	日本家政学会誌 Vol.61 (6) 339-347	<p>高岸和子、奥田豊子、玉置まどか 血糖値に影響を与える要因を検討するために耐糖能異常者と健常者を対象に、臨床検査値、身体計測値、食行動、日常習慣、嗜好食品、栄養素等摂取量、職歴別に因子分析を行った。栄養教育としては、本研究で明らかになった糖付加2時間血糖値へ影響をする食行動や生活習慣（甘味・塩味に対する嗜好性、日常の活動不足、動物性脂肪の過剰摂取）の変容を働きかけることが、食後血糖値の上昇を予防に有効であることが示唆された。</p>
9. 栄養療法のプランニング 栄養アセスメントとケアプラン -たんぱく質	単	2010年06月	NutritionCare Vol.12. 45-48	<p>高岸和子 実際に現場で役立つ栄養管理を目指し、管理栄養士の現場力を高めるワークブック形式とし、主に栄養管理におけるたんぱく質・脂質・糖質につき、多方面からの算出方法、落とし穴などに具体的に記述した。</p>
10. 栄養療法のプランニング 栄養アセスメントとケアプラン-必要エネルギー	共	2010年06月	NutritionCare Vol.12. 40-44	<p>高岸和子 実際に現場で役立つ栄養管理を目指し、管理栄養士の現場力を高めるワークブック形式とし、主に栄養管理における必要エネルギー量につき、多方面からの算出方法、落とし穴などに具体的に記述した。</p>
11. 50歳代男性の耐糖能異常者における食生活・生活習慣の特徴（査読付）	共	2010年05月	日本家政学会誌 Vol.61 (5) 277-286	<p>高岸和子、奥田豊子、玉置まどか 耐糖能異常の食生活・生活習慣などの特徴を明らかにすることを目的に、人間ドックで初めて耐糖能異常と判定された患者の食生活、生活習慣、体格、臨床検査の結果を糖尿病累積発症の要因と比較検討した。結果は、飲酒、間食、偏食、欠食、外食、喫煙、運動不足が、耐糖能異常症と関連性がたかいことを示唆された。</p>
12. 入院中の小児の栄養スクリーニングツール - オランダの国内調査	共	2010年04月	臨床栄養 Vol.116 (4) 404-408	<p>雨海照祥、高岸和子、脇田真季 対象は本研究への参加に同意したオランダ国内の小</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
13. 小児のアウトカム指標としての体重身長比Zスコア WHO基“W/H”Zスコア	共	2010年04月	JNCセレクト Vol. 3. 114-120	<p>児科病棟を持つ病院の3日間のスクリーニングデータ(年齢, 性, 診断名, 入院日数, 人種, 手術の有無, 基礎疾患, 入院理由(呼吸器系, 外傷, 感染症, 外科疾患, 腫瘍など)。低栄養症候群の栄養診断における栄養アセスメントの意義は、アウトカムを予測して、適切な栄養ケアを改善することである。日本の少子化社会の根本にも栄養の問題があり、社会レベルで認識し、解決策を見出す必要がある。</p> <p>雨海照祥, 高岸和子, 脇田真季, 宮本恵里 小児における栄養療法の効果判定指標としてのアウトカムに何を設定すべきかは、栄養状態を評価判定した。結果は小児のアウトカムの予測因子としての栄養アセスメント指標として、W/H-Zスコアの急性期の重傷の低栄養症候群での有用性が示された。筋肉量の指標としてにMUACおよびAMAの有用性が示された。</p>
14. ミニ栄養アセスメントーその歴史、現在の展開、そして今後の展望	共	2010年03月	ヒューマンニュートリション Vol. 3. 18-22	<p>雨海照祥, 高岸和子 高齢者におけるMNA, MNAの開発動機, MNAにおけるAt riskの意義, MNAの開発の経緯, MNAによるアウトカム予測の精度, 予測後にAt risk群に施行する栄養サポート, MNAを正しく使う方法を教育することの重要性, MNAには存在しない特徴をも意識して使うことの重要性と現在におけるMNAの意義と限界につき海外の文献を総説。</p>
15. 膵疾患嚢胞性繊維症	共	2010年03月	日本臨床 Vol. 68 (3) 397-403	<p>雨海照祥, 谷口章子, 高岸和子, 脇田真季, 松岡美緒 化器系と呼吸器系を侵す外分泌腺の遺伝性疾患である嚢胞性線維症のける栄養所要量, 栄養評価および合併症の対する治療目的薬物治療としての抗酸化剤の活用法, 生活期, 予後, 嚢胞性線維症膜貫通調節蛋白質、遺伝子欠失, 栄養補助法, 栄養失調と栄養評価法のありかたにつき記述した。</p>
16. 低栄養症候群	共	2010年03月	日本臨床 Vol. 68 (3) 448-452	<p>雨海照祥, 高岸和子, 脇田真季, 松岡美緒 低栄養症候群における栄養補給手段として用いる静脈・経腸栄養法は、悪液質, 筋萎縮症, 筋蛋白質, 筋力低下, 老年病, 栄養失調, 易感染性宿主などの診断, 治療, 合併症のアウトカム評価(保健医療)、重症度指標を用いた栄養評価の実施を元に、栄養補給法の考案、モニタリング、栄養管理の必要性につき記述した。</p>
17. 栄養療法のプランニング 必要エネルギー量	単	2009年11月	NutritionCare	<p>高岸和子 基礎代謝量, 安静時エネルギー消費量, Harris Benedict, BMI, Wairの簡易式, ストレスに応じたエネルギー, 急性期のエネルギーなど多様化する栄養管理における必要エネルギー量の算出方法について記述した。</p>
18. 栄養療法のプランニング たんぱく質、資質、糖質	単	2009年11月	NutritionCare	<p>高岸和子 栄養補給法の算出において不可欠となる三大栄養素の算出方法につき記述した。主にたんぱく質はNOC/N比, BCAAを考慮し、脂質と糖質は、健常時と病態時の代謝回路を踏まえて補給方法の算出につき解説した。</p>
19. 消化器疾患における栄養療法の基本と実際 消化管質感における栄養アセスメントとケアプランの意義	共	2009年10月	消化器の臨床 Vol. 12 (2)	<p>脇田真季, 高岸和子, 松岡美緒, 雨海照祥 栄養障害を有する消化管疾患患者は、創傷治癒の遅延や免疫能の低下や合併症の発症率, 脂肪率の増加等負のアウトカムが高率に発生する。従って栄養アセスメントにより栄養障害を有する症例を抽出し、適切な栄養ケアにより栄養状態を改善することは、これら負のアウトカム発生を予防するための重要である。アウトカムの予測を可能にする栄養アセスメント指標にはAlb値, PNI, MNAがあり、栄養アセスメント指標を適切にもちいることによりアウトカム不良症の抽出が可能となる。</p>
20. 小児におけるアウトカム指標としての予後推定栄養指数 小児におけるPNIの意義	共	2009年05月	臨床栄養 Vol. 114 (6) 621-626	<p>脇田真季, 谷口章子, 川脇恵, 松岡美緒, 高岸和子, 雨海照祥 小野寺らのPNIは、AlbとTLCの2つの指標により算出され、これらの予後推定栄養指標のなかで最も簡便な指標とされる。ICU在日数から検討し、心臓手術を受けた乳児(18か月以下)では、小野寺らのPNIの境界値は「55」であった。成人と同様にPNI低値群に対して術前に栄養介入することで、術後アウトカムを改善できる可能性が示唆された。</p>
21. 脂肪乳剤の効果 臨床アウトカムにおける意義と課題	共	2009年05月	臨床栄養 Vol. 114 (6) 710 - 717	<p>雨海照祥, 高岸和子, 脇田真季, 松岡美緒 静注用の脂肪乳剤LEの効果アウトカム指標の改善という視点から概観。LEは従来より我が国で入手できるLCTを唯一の脂肪酸とするLCT-LEのほかMCT, 構造脂肪, 植物油, 魚油, さらにそれらをカクテル用にブレンドしたSMOFが欧米では市場で臨床的に利用されている</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
22. Gilbert症候群に総胆管結石症、急性胆管炎を合併に対する栄養サポート	共	2008年03月	島根県栄養士会雑誌	LCT以外の脂肪酸を含有するLEの多くは、その免疫調節効果によって正の効果が報告されている。この免疫調節機能はおもに物理学的、化学的、生物学的および遺伝子学的性質による。 雨海照祥, 安達佳世, 高岸和子, 大石恭子 47歳、Gilbert症候群を合併する総胆管結石、急性胆管炎で入院した女性の、主に入院中の急性期の栄養サポートを考察した。高度肥満、メタボリック症候群にGilbert症候群などの肝機能障害を合併した症例では、非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) の可能性を念頭において追跡する必要性を考察した。
23. 中鎖脂肪酸の臨床的意義—中鎖脂肪酸の機能の多様性—	共	2007年12月	臨床栄養 Vol.111 (7) 904-911	雨海照祥, 高岸和子 中鎖脂肪酸の抗コレステロール効果、エンドトキシンの肝細胞障害、小腸粘膜障害の予防、遺伝子レベルでのIL-8産生抑制、短腸症候群、クローン病での臨床的効果などを概説。
24. Investigation on nutrition education evaluation by introduction of POS	共	2007年09月	Kanto Gakuin University, Society of Human and Environmental Studies, bulletin kiyou14 47-57	Matsuzaki Masami, Takagishi Kazuko A POS-Problem oriented system-based nutrition guidance evaluation form, which allows for intervention of education focusing on awareness and behavioral changes of patients following nutrition guidance, and a self-evaluation form, which is completed by patients, were introduced.1.
25. 食物・栄養成分のエネルギーと生体における利用機序 (査読付)	共	2007年06月	栄養 評価と治療 Vol.24 (4) 352-356	雨海照祥, 高岸和子, 鞍田三貴, 大石恭子, 藤澤克彦 食物それ自身はエネルギーではない「おにぎり命題」。その食物を生体 (人間) が摂取し消化吸収、代謝して初めてエネルギーが生まれるのである。一方、人間が生きていること自体がエネルギー代謝のものであり、人間それ自体がエネルギーの魂と考えてよい「人間命題」。この「人間命題」におけるエネルギー代謝を、食物・栄養成分の利用機序の観点から概観し、特に体温維持に有効なDITの意義について述べた。
26. 肝性脳症を伴う肝硬変患者に対するアミノレバンEN投与の臨床的有用性の検討	共	2007年03月	関東学院大学 人間環境学部紀要	松崎政三, 高岸和子 慢性肝疾患患者に対するBCAAの補給は有意義と考えられ、肝性脳症を伴う非代償性肝硬変患者において、その有効性が明らかにされてきた4)-6)。さらに、経口剤は非代償性肝硬変患者の栄養状態を改善するといわれているが、その検討はいまだ十分とはいえない7)-14)。そこで我々は、肝性脳症を伴う慢性肝不全患者に対するアミノレバンEN投与の有用性を、経口摂取状況、服薬状況について連日指導・調査を行いながら検討した。
27. 境界型糖尿病症例の食生活の実態—人間ドックのデータ分析—	共	2007年03月	大阪教育大学紀要	高岸和子, 奥田豊子 耐糖能異常の食生活・生活習慣などの特徴を明らかにすることを目的とし、人間ドックで耐糖能異常と初めて判定された50代男性412例と健常者203例を計615例の食生活、生活習慣、体格、臨床検査の結果を糖尿病累積発症の要因と比較検討した。
28. 電子カルテ時代における記録と栄養アウトカム評価—初回糖尿病症例—	共	2007年01月	日本POS医療学会雑誌 Vol.12 (1) 82-87	高岸和子 松崎政三 カルテの電子化に向けて、POSによるSOAP形式での効率的な栄養指導記録の記載と栄養アウトカム評価の設定のために、栄養教育上相互関係の深い問題点を抽出し、パス解析を導入し検討した。
29. POS導入による栄養指導記録内容の検討：糖尿病初回指導症例	共	2006年01月	日本POS医療学会雑誌 Vol.11 (1) 117-121	高岸和子, 丸田達也, 松崎政三 栄養指導記録の記入にあたり、栄養ケアマネージメントにPOS形式を導入してきたなかで、栄養指導件数が最も多かった糖尿病初回栄養指導症例を対象に、効率的な栄養教育の実践に向けて、個々のプロブレムがもつ特性と影響性について検討した。
30. OPS導入による栄養評価の検討	共	2005年03月	日本POS医療学会雑誌 Vol.10 (1) 129-134	高岸和子, 松崎政三, 丸田達也 栄養教育に介入可能なPOS方式の栄養指導評価と自己評価表を考案し、栄養教育の向上と栄養指導後の栄養管理の充実度を検討した。
31. 高齢糖尿病慢性腎不全患者における外来栄養指導—症例	共	2004年03月	武庫川女子大学紀要 (自然科学編) Vol.50 45~50	為房恭子・高岸和子 4年間良好な栄養状態を維持し、有意な腎障害の進展が見られなかった外来通院の高齢糖尿病性腎不全患者の栄養指導内容と食事摂取内容、腎症保存期の食事療法を、丁寧なモニタリングを行うことで患者のコンプライアンスを持続させ得たことから、その有効性について検討した。
32. 透析患者に対する栄養指導の試み	共	2000年03月	臨床透析 16 (2) 224~231	中辻美和子・高岸和子・藤井正満 慢性腎不全保存期より継続栄養指導を行ってきた透析患者に対し家庭での食事管理の実践度と栄養管理の充実度について検討した。担当

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
33. 肝硬変患者の栄養管理の実際—アミノレバンEN服用時の栄養指導	共	2000年03月	厚生年金病院年報 Vol.127. 274~434	伊藤佐奈江・辻真紀子・中辻美和子・高岸和子・松崎政三 アミノレバンEN 2包を併用した肝硬変の食事を4週間供与と同時にベッドサイド訪問による栄養指導実施し、その栄養学的効果と栄養教育効果の検討を非代償性肝硬変患者を対象として図った。
34. 低アルブミン血症を伴う肝硬変患者に対するアミノレバンEN投与の臨床的有用性の検討（査読付）	共	1998年10月	Pharma Medica Vol. 16(10) 141~147	東・内藤・石橋・片山・柏木・伊藤・高岸・松崎 肝性脳症を伴う慢性肝不全患者に対するアミノレバンEN（1日2包）投与の有用性を、経口摂取（1600kcal、たんぱく質50g）、服薬状況について連日指導の調査を行いながら検討した。
35. 糖尿病性腎症の食事療法	共	1997年11月	日本臨床 Vol. 55 (4) 47-52	高岸和子・松崎政三・関谷正志・星充 食事療法は、患者自身が毎日実行して効果の得る治療法である。医師の診察に平行した継続的栄養指導を実施し、食事管理を良好に行えるシステムの確立について検討した。担当（PP. 48~51） Vol. 55増刊号
36. 糖尿病性腎症透析患者のための略式早見食品交換表の評価	共	1994年03月	厚生年金病院年報 Vol. 21 379-386	高岸和子・松崎政三・藤田峻作・星充 リン管理とたんぱく質確保が容易で、単位計算が不要な、リーフレットを用いた略式早見食品交換表を考案し、糖尿病性腎症透析症例の退院後の食事療法に採用し、家庭での栄養管理の充実について検討した。
37. 糖尿病性腎症患者のための食品交換早見表の評価	共	1993年03月	厚生年金病院年報 Vol. 20 417~425	高岸和子・松崎政三・藤田峻作・星充 たんぱく質管理、エネルギー確保を意図とした食品交換早見表を考案し、糖尿病性腎症例の食事療法の継続実施に適用することにより、栄養管理の充実について検討した。
38. 透析患者の栄養サポート—糖尿病の透析患者—	共	1991年3月	臨床透析 Vol. 13(13)1730~1737	星充・白井大祿・高岸和子 大阪厚生年金病院で経過を観察し維持透析時のデータの得られた糖尿病透析例で動脈硬化性病変の進展について解析し、この阻止のための栄養サポートはどうあるべきかを検討した。
39. リーフレットを用いた新食品交換表の評価	共	1991年03月	厚生年金病院年報 Vol. 18 429~439	高岸和子・為房恭子・中村多慶男・藤田峻作・星充 計量の簡素化、食品選択幅の拡大を意図したリーフレット形式の新食品交換表を作成し、肥満糖尿病患者の食事療法の継続実施に適用することにより、栄養管理の充実について検討した。
40. 昼食を通じた栄養指導（査読付）	共	1989年04月	大阪透析研究会 Vol. 7 (2) 163~169	高岸和子・為房恭子・白井大祿 大阪厚生年金病院で実施している透析食の昼食摂取状況を把握し、さらに昼食時の食事を通じた食事指導を強化することによる栄養管理の充実について検討した。
41. 当院における糖尿病栄養指導の実際	共	1989年03月	厚生年金病院年報 Vol. 16 497~510	高岸和子・為房恭子・中村多慶男・藤田峻作・星充 栄養指導受講後の患者が記載した過去7年間に亙る食事記録用紙より、栄養教育の目標に添って、患者様の食に対するとらえ方、教育入院効果、更には管理栄養士の指導方針のあり方について分析した。担当

その他

1. 学会ゲストスピーカー

1. 栄養指導のスキルアップ—効果的な栄養食事指導媒体の活用—	単	2013年3月7日	西宮市保健所	治療法として重要な役割を担う食事療法は、患者の生きる喜びを生み出す機能をもつ食事を取り扱う以上、食事がもつこれらの機能が最大限に発揮できるよう配慮した栄養食事指導媒体の開発が望まれる。講演会では、実際に考案した複数の栄養食事指導媒体を例に挙げ、参加者と一緒に問題点を検証し、改善点を考察した。
2. 生涯学習研修会	単	2012年12月12日	大阪府栄養士会	臨床栄養における栄養アセスメントの基礎から栄養ケアプラン作成までについて講義した。また、講義した内容の理解を深める目的では、後半に慢性腎不全症例を導入し、実践演習を行った。
3. 食の安全と衛生	単	2011年8月	平成23年度阪神・丹波地区学校給食衛生管理推進研修会	食中毒に関する22項目に対してQ & Aの形式にて口述。また、品質管理、食品材料保存期間の目安等についても口述。
4. 第34回日本臨床栄養協会近畿地方会		2010年03月	日本臨床栄養協会近畿地方会	栄養管理のスキルアップ 効果的な栄養食事指導のためのアセスメント 『小児肥満症の栄養管理』
5. 第33回日本臨床栄養協会近畿地方会		2009年11月	日本臨床栄養協会近畿地方会	栄養管理のスキルアップ 効果的な栄養食事指導のためのアセスメント 『成人肥満症の栄養管理』
6. 第28回日本POS医療学会		2006年03月	日本POS医療学会	電子カルテ時代における記録と栄養アウトカム—糖尿病初回指導症例—
7. 栄養アセスメントに基づいた栄養ケアプランの作成と実際		2004年8月	生涯学習研修会（栄養士会）	症例に沿って初回栄養アセスメント、モニタリングを一緒にを行い、病期におけるアセスメントの違いや考え方、補給方法、さらには、栄養ケア計画の立て方について口述。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
8. 栄養状態の評価判定		2004年3月	栄養情報担当 (NR) 指定 溶製講座	身体計測、生理生化学検査、臨床診査、食事調査などの各計測項目が示す栄養状態の評価判定方法について口述。また、栄養アセスメントシートを用いて実践演習を実施。
9. 生涯学習研修会		2004年08月	大阪府栄養士会	栄養アセスメントに基づいた栄養アセスメントの作成と実際
10. 健康・栄養食品アドバイザー (NR) 養成講座		2003年12月	日本栄養士会	栄養アセスメント
11. 栄養アセスメント		2002年8月	第23回臨床栄養協会 (分科会)	チーム医療において管理栄養士が実施すべき栄養アセスメントと栄養補給とは何かを口述。栄養評価をどのように行うべきか症例をあげ実習。また、栄養アセスメントに関する実践演習を実施。
12. 検査に基づく栄養指導		2002年7月	姫路市病院栄養士研究会	初回指導時、指導経過時、退院後の検査値からの展開方法について症例 (肥満症、糖尿病、腎臓病、肝臓病、高血圧症、胆石症、高脂血症) をあげて、個々のデータと食事との関連、また推測できる事項について口述。
13. 高齢者の栄養管理—栄養アセスメントから栄養補給の実際まで		2002年10月	奈良市集団給食施設研修会	高齢者に起こりやすい栄養の問題、高齢者特有の栄養アセスメント、経口摂取可能な場合の喫食量に応じた対策、経口摂取不可能な場合の栄養補給法、咀嚼・嚥下障害に対するメニューの考え方、食べさせかたについて口述。
14. 栄養食事記録とPOSの導入		2001年9月	社会保険病院研究会	患者情報や指導内容、患者の栄養状態の評価、今後の方針などが他の医療スタッフに理解されるように具体的に書く上で導入し易いシステムとしてのPOSとは何か、POSによる指導記録の書き方について口述。
15. チーム医療のためのSOAP		2001年6月	尼崎病院給食研究会	患者への具体的な対応、栄養指導に必要なカルテの見方や必要な情報収集について、また教材の使い方、実際に活用しているフォーマットを利用して、SOAPを使用している記録用紙作成演習を実施。
16. 栄養指導記録の書き方		2001年4月	第22回日本臨床栄養協会近畿地方会	栄養指導へのPOS導入が意味するもの、栄養指導記録方法としてのSOAPとは何か、個々の文字が意味するものについて解説。ロールプレイによる栄養指導を媒体として、フォーマットを用いて実践演習。
17. 健康食は糖尿病食		1999年9月	糖尿病予防キャンペーン西日本地方会講演会 (パネルディスカッション)	血糖値と炭水化物との関係、炭水化物の種類 (単糖類、二糖類、多糖類) と血糖値上昇の違い、体内における炭水化物の働きと役目、たんぱく質代謝と血糖値など血糖値と食物との関係について口述
18. 高血圧の食事療法と栄養指導の実際について		1997年10月	大阪府栄養士会セミナー	高血圧症の栄養指導のポイントを10項目まとめ、症例をあげて指導教材を用いて詳細に解説。献立のため方・考え方・ポイントは、図解説。現場における栄養指導でのQ&Aを実施。
19. 栄養指導論		1997年10月	産業栄養指導専門研修	栄養指導進行上の心得と具体的な進め方、臨床の評価、教育的評価、GOLの評価、指導方法の評価、医療経済的評価の内容をふまえて行うべき栄養指導の評価、カウンセリングの技法などについて症例をあげて口述。
20. 糖尿病食養生のコツ		1992年3月	第4回糖尿病患者のための講演会	糖尿病患者と家族を対象に、家庭における食事療法のあり方、工夫方法、またリーフレットを用いての食品選択方法、食品添加物をさけるコツ、過酸化脂質の減少方法など身近な食品との上手な付き合い方について口述。
21. 糖尿病患者指導の実際「栄養指導の実際」		1992年2月	診療所のための糖尿病管理セミナー	外来の糖尿病患者に対する栄養指導・教育のポイントについて、大阪厚生年金病院における栄養指導システム、食事記録用紙による分析、糖尿病昼食会などを媒体にまとめた。
22. 糖尿病コントロール悪化の原因と対策—外食 (アルコール・間食を含む) の注意点—		1991年10月	大阪糖尿病協会三十周年総会 (パネルディスカッション)	糖尿病のコントロールが悪化する食事性の要因である外食・間食・アルコールを主体に糖尿病患者の食生活の実態調査結果の分析と今後の栄養管理をどうあるべきか検討した。
23. 糖尿病性腎症におけるCAPD患者の食事問題とその実際		1990年2月	第4回北陸CAPD臨床懇話会	糖尿病性腎不全患者の食事管理につき、1. HDと異なる栄養上の問題点 2. 食事指針 3. 栄養基準量の考え方 4. 水分出納 5. 栄養指導媒体 6. 実践に導くための効果的指導法などについて口述。
24. 糖尿病性大血管合併症の症状と克服法—栄養面から—		1989年10月	第27回大阪糖尿病協会総会 (パネルディスカッション)	糖尿病治療食の栄養指導を受講後、患者自身が記載した過去7年間に渡る食事記録用紙の分析結果と、食生活のアンケート調査結果を中心に、動脈硬化症の食事性について検討した。
25. 糖尿病患者の栄養指導	単	1988年11月	第24回日本糖尿病協会近畿地方会 (シンポジウム)	栄養指導システムの中でも、患者自身が実際に記載した過去7年間の食事記録用紙より、患者の食に対する捉え方と管理栄養士の指導方針のあり方について分析した。
2. 学会発表				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
1. NST介入が有効であった重症妊娠悪阻妊婦および食思不振妊婦の2症例の検討	共	2015年2月	第30回日本静脈経腸栄養学会	中村菜摘、西本裕紀子、森元明美、加嶋倫子、藤本素子、五郎畑美穂、関戸彩、谷ゆり、光田信明、位田忍、高岸和子 重症妊娠悪阻妊婦や長期的な食思不振による経口摂取不良から栄養障害をきたす妊婦に対し、輸液やビタミン類の投与に留まらず、静脈栄養もしくは経腸栄養を用いた包括的栄養管理を行うことは、妊婦および胎児の低栄養改善に有用である。
2. 適正粘度の簡便ミキサー食作成の検討-第1報-	共	2015年10月	第37回日本臨床栄養学会総会 第36回日本臨床栄養協会総会 第13回大連合大会	伊藤真緒 西本裕紀子 森本明美 加嶋倫子 恵谷ゆり 位田忍 高岸和子 自然食ミキサー食(M食)は、家族と同じものが食べられ、栄養成分の調整が可能である利点がある。しかし、M食が栄養管理上有効性を発揮するには、適正粘度と栄養量の担保が必要となる。適正粘度のM食作成にはラコール半固形剤(ラ)を適正粘度とした。酵素を加えずに作成した粥は、同条件でも粘度が一致しなかったが、酵素粥の粘土は一致し、少ない容量で基準粘度に近いものが作成でき注入時間も短縮した。適正粘度での栄養量確保が可能であった。今後は、家庭の惣菜でM食を作成する際水分の代用として、本検討の酵素粥を用い、適正粘度と栄養価を確保を確保できるかどうか検証を行い在宅での簡便にできるM食レシピの作成をおこなっていきたい。
3. 複数の疾患を持ち経口摂取困難な褥瘡症例への栄養介入に対する管理栄養士と多職種との取り組み	共	2015年10月	第37回日本臨床栄養学会総会・第36回日本臨床栄養協会総会 第13回大連合大会	玉置まどか・高岸和子 褥瘡発症した複数疾患を持ち経口摂取困難な症例に対し、多職種介入時の管理栄養士に役割を検討。NST介入により定期的な病棟訪問により状況に応じた食事形態変更へに随時実施、リハビリによる活動量増加、看護師の根気ある食事介助継続の結果、約1か月で食事摂取量・体重の増加、褥瘡縮小、Albやや改善が図れた。特に本症のような消化管術後既往、アルコール過多歴が要因で経口摂取量が少ない症例の栄養管理は、食事形態、低血糖や摂取不足には早期からの積極的介入、患者栄養教育、多職種連携が重要。
4. ミキサー食を導入した慢性腎不全の重症心身障がい児の1症例	共	2015年10月	第7回日本静脈経腸栄養学会近畿支部学術集会	伊藤真緒 西本裕紀子 森本明美 加嶋倫子 恵谷えり 樽英樹 清水義之 松尾規佐 馬場千尋 豊田利恵子 藤田佳世 宮部裕子 庵森靖弘 望月成隆 山田寛之 高岸和子 経管栄養は微量元素・n-3系脂肪酸欠乏、逆流、下痢などの合併症や慢性疾患合併症では成分調整が困難で、自然食品ミキサー食(N食)が見直されている。CKDの重心児(脳性まひ7歳女児)にNSTが介入し腎機能維持と栄養、便秘改善、家族のQOL改善を目的にM食を用いて検討。退院時に母親へ実演指導を行い在宅でのM食を継続を図った。在宅でも無理なく指示内容の注入ができ、家族は児の便性、低体温改善、家族と同じ食事を摂取できたことに喜びを感じた。体重の増加16.7→17.1kg, ALB2.6→2.6g/dl BUN26.5→15.6mg/dl, Cr1.26→1.14mg/dl。栄養状態には変化はなかったが、上昇傾向であったBUN, Crは改善。体重増加も見られ栄養量を再考し、今後もM食継続により腎機能維持、栄養改善が可能であるかを検討したい。
5. NST介入が有効であった重症妊娠悪阻妊婦の1例	共	2014年7月	第6回日本静脈経腸栄養学会 近畿支部学術集会 シンポジウム	中村菜摘、西本裕紀子、森元明美、加嶋倫子、藤本素子、五郎畑美穂、関戸彩、谷ゆり、光田信明、位田忍、高岸和子 症例は妊娠9週1日にケトン体3+、体重減少6%のために入院管理となった27歳不育症妊婦(3妊0産)。6病日より個別対応食開始したが経口摂取量600kcal, Hb11.3g/dl, Alb3.4g/dl, TTR12.2mg/dl RBP1.3mg/dl, Tf171mg/dlと低蛋白血症を呈した。この経口摂取不良に対しては、NST介入によって静脈栄養と経腸栄養管理を併用。Alb3.2g/dl, TTR20.0mg/dl, RBP2.6mg/dl, Tf259mg/dlと低蛋白血症も改善、1400kcal/日の経口摂取が可能となった。NST介入によって静脈と経腸の包括的栄養管理計画の作成を実施。妊婦の低栄養状態の改善に有用であったと考えた。
6. 重症妊娠悪阻患者の体格と食嗜好についての検討	共	2014年10月	第36回日本臨床栄養学会総会・第35回日本臨床栄養協会総会 第12回大連合大会	中村菜摘、西本裕紀子、森元明美、加嶋倫子、藤本素子、五郎畑美穂、関戸彩、谷ゆり、光田信明、位田忍、高岸和子 sHGは妊娠の経口摂取量の低下から栄養障害につながる可能性がある。今回sHGの入院患者の体格、食事摂取量、食嗜好について後方視的に検討。対象は個別対応食実施18例。入院加療したsHG患者の尿ケトン体は有意に減少し痩せの進行は抑制できた。食嗜好は個人差が大きくsHGに特化したものは見当たらなかったが、管理栄養士による個別対応で個々の妊婦の嗜好に適した食品の探索ができ、今後、摂取熱量増加につなげる必要があると考えた。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
7. 心理カウンセリングを取り入れた2型糖尿病症例の栄養教育	共	2014年10月	第36回日本臨床栄養学総会・第35回日本臨床栄養協会総会 第12回大連合大会	玉置まどか、高岸和子 行動変容を変えることが困難な症例に心理カウンセリングを導入し、患者栄養教育の向上を図った。患者栄養教育では、①食品摂取頻度調査で食事内容・指導時の行動変容のみに焦点をあてるのではなく、過少申告の原因を探る。②患者背景、発言する言葉の傾向を把握、情報利用に対する否定はせず、内容選別ができる知識の習得をいかに追い詰めず一緒に考えて行く施設を見せることが必要。栄養教育の質の向上には、管理栄養士も心理カウンセリング技術を高め、資格取得者との協力が不可欠である。
8. 血糖管理が良好な妊娠糖尿病患者の栄養状態と出生児の体格の検討	共	2013年5月	第56回日本糖尿病学会 年次学術集会	菅沙織 西本裕紀子 森元明美 鹿島倫子 藤本素子 川原央好 和栗雅子 高岸和子 GDM患者の栄養状態と出生児の体格の関連性を検討。GDMの有無で児の体格に差は無かったが、GDM母体の栄養状態は不良の可能性が示唆された。一方、妊娠中体重増加によって栄養状態に差は無かったが、母体重増加過剰群の児に巨大児は含まれず、適正群に比べて有意に高値を示した。GDM母体の血糖・体重管理の栄養状態との関連について更なる検討が必要と考えられた。
9. 妊娠糖尿病患者6症例における食事摂取状況・栄養状態と出生児体格についての検討	共	2013年10月	第35回日本臨床栄養学総会 第34回日本臨床栄養協会総会 第11回大連合大会	菅沙織 西本裕紀子 森元明美 鹿島倫子 藤本素子 恵谷ゆり 和栗雅子 井田忍 高岸和子 GDM患者の食事摂取状況と栄養状態および出生児の体格との関連性について検討。妊娠中体重増加は出生時体重と出生時Zスコアと正の相関を示した。指示エネルギー量摂取率と出生時頭囲に正相関を見た。妊婦のA1bやPAの正常値のデータは無いが、分娩前のA1bは3例で3.0g/dl以下、PAは5例で22mg/dl以下の低値を示した。GDM患者の血糖管理のための食事制限は必須であるが、GDM母体の栄養状態不良と出生児体格の間に関連性が示唆され、GDM患者の食事制限は、母体の栄養状態に配慮しながら慎重に行う必要があると考えた。
10. 慢性腎臓病（非透析）患者への栄養教育	共	2013年1月14日	第16回日本病態栄養学会 年次学術集会	高岸和子 奥田豊子 奥村友香 野田侑希 菅沙織 玉置まどか 栄養カルテは後ろ向きに解析し、透析導入時点での栄養ケア問題の到達度および栄養アウトカム指標を検討した。クレアチニン上昇および腎機能低下を招く栄養素等摂取不良の6項目（エネルギー、たんぱく質、カリウム、リン、食塩摂取過剰）、食生活週間の3項目（欠食、治療用特殊食品未利用、外食・中食週間）にポイントを絞った栄養教育の展開が効果的と考える。同時に食事療法に対するストレス、経済的問題、孤食、家族非協力の4項目は栄養素等摂取不足のも大きく影響を与えており、これらの問題をも念頭においての栄養教育が望まれる。
11. 難治性てんかん患児に対するケトン食療法の導入	共	2012年12月	第11回日本栄養改善学会 近畿支部学術総会	野田侑希 高岸和子 西本裕紀子 柳原恵子 鈴木保宏 ケトン(K)食は小児難治性てんかんの治療法として用いられている食事療法であるが調理者負担、下痢、嘔吐、低血糖、高脂血症などの副作用から継続には困難を伴う。今回K食療法を導入した患児8例の経過から難治性癲癇におけるK食の位置づけについて検討。全例ほぼ100%の喫食が可能。血中3-OHB濃度：K食開始1週間以内に $2700 \pm 1249 \mu\text{mol/l}$ へ上昇。副作用：高脂血症4例、嘔吐2例、低血糖1例。平均継続期間 221 ± 27 日。K食の導入は個々のK比や食事形態、嗜好に応じた食事内容の調整でスムーズに進めえる。レシピ紹介、外来栄養食事指導時の摂取K比と血中K濃度の評価より、家庭でも一定の血中K濃度を維持した継続が可能となる。今回のK食導入方法、継続サポートにより、血中K濃度を3～10ヵ月高値に維持することが可能であった点は評価できる。現在、難治性てんかんにおけるK食導入基準は確立されておらず検討が待たれる。
12. GLUT1異常症に対するケトン食療法における栄養士の役割	共	2012年10月5日	日本臨床栄養学会・日本臨床栄養協会第10回 合同連合大会	野田侑希 西本裕紀子 高岸和子 柳原恵子 鈴木保宏 位田忍 GLUT1異常症治療の第一選択はケトン食療法であり、診断後可能な限り早期にケトン食を開始することがてんかん発作や精神運動発達遅延の改善に有効となる。ケトン食は主食量が極単に少なく、脂質過多と継続摂取可能とするには、嗜好を加味した個別献立対応が不可欠。また病棟訪問による患児の臨床症状や摂取確認、母親を含めたコミュニケーションを図る必要性は高い。今回の導入結果は4例全例で症状改善を得た。一方で、脳の発達は6歳までに90%が完了すると言われているため、早期診断が重要となる。ケトン食導入期には発作や失調の改善を確認し。維持期には患児と家族が無理のない範囲で継続可能な

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
13. CKD分類を行った腎不全保存期（非透析）患者の栄養食事指導への変化ステージモデル導入	共	2012年10月	日本臨床栄養学会・日本臨床栄養協会第10回合同連合会	ケトン比を主治医へ提案しケトン食療法の継続をサポートすることが栄養士の役割となる。 玉置まどか 高岸和子 CKD患者には変化ステージモデルを導入し指導後の傾向と今後の対策を検討した。たんぱく質制限は各ステージとも実施傾向を認めたが準備期は指示エネルギー確保が出来ず体重が減少、食塩制限未実施率60%と高かった。行動期・維持期に達した患者は変化ステージに関わらず食事療法の継続が可能となりライフスタイルとの適合、患者自身の認識は高いと推察したが、長期に渡る食事療法へのストレスなど心理面にも注意を要すると推察した。
14. 難治性癲癇を伴うWest症候群児に対するケトン食療法における栄養士の関わり	共	2012年03月	第9回日本小児栄養研究会	野田侑希 高岸和子 西本裕紀子 癲癇症候群である難治性癲癇を伴うWest症候群に対する有効的な栄養補給法は今だ確立されていない。ケトン食は主食量が極端に少なく、脂質過多と継続摂取可能とするには、嗜好を加味した個別献立対応が不可欠。また病棟訪問による患児の臨床症状や摂取確認、母親を含めたコミュニケーションを図る必要性は高い。今回の導入結果は6例中2例のみが癲癇発作が軽減。今後は癲癇軽減が容易な栄養補給法の考案が望まれる。
15. 食物アレルギー患児の食QOL向上への取り組み	共	2012年03月	第9回日本小児栄養研究会	奥村友香 高岸和子 今回は、特殊食品を使用せず、小麦、卵、牛乳・乳製品アレルギーを持つ幼児に対応するためには、代替食品として米粉、豆乳・豆腐及びココナッツミルクを採用。ケーキは、スポンジを土台とし、高さを出すためにゼリー及びムースを重ねた、調理不得意者でも作成可能なもの(A)、難易度が少々高いもの(B)の2種類考案。アレルギー患児の食QOL向上を目指した。
16. 慢性腎臓病（CKD）患者の栄養管理	共	2011年10月	日本臨床栄養学会・日本臨床栄養協会第9回合同連合会	玉置まどか 高岸和子 慢性腎臓病患者の栄養食事指導に対する意識変化、行動変容を把握し、より効果的な栄養教育の実現を模索した。変化ステージモデルの導入は、各期の動向・共通点・意識変化・行動変容が容易に把握でき、個々人に応じた栄養介入を進めることで、より効果的・継続的に食事療法を実践させるには有用であることが示唆された。
17. 慢性腎臓病（CKD）患者（非透析）の栄養食事指導と変化ステージモデル	共	2010年09月	第57回日本栄養改善学会学術総会	玉置まどか 高岸和子 本研究は継続栄養食事指導を行った慢性腎臓病患者に対して変化ステージモデルを活用し、栄養食事指導における傾向と今後の対策を検討した。結果は行動期・維持期に達した患者は変化ステージを戻ることなく食事療法の継続が可能となり、ライフスタイルとも適合し、習慣化できたいが、患者の食事への要求は今なお強く、失敗や再発の可能性は高いことが分かった。患者の動向把握が容易な本モデルの導入は有用である事が示唆された。
18. 母および子の体型認識、食行動が子の食行動におよぼす影響	共	2010年09月	第57回日本栄養改善学会学術総会	藤澤克彦, 大石恭子, 高岸和子 本研究は女子大と保護者を対象にCDRS, EAT26, DEBQの3種類の質問用紙を用い得られた下位尺度の総合点を重回帰分析後抽出された因子と食行動の因果関係をパス解析にて探った。子の食行動異常を誘発する因子は、母子双方の体型認識のずれと食行動異常であった。また母の体型認識が子の体型認識を介して子の食行動異常に影響を及ぼしていた。子の栄養教育効果は、母親の体型認識、食行動は正の実践で向上が期待できることが示唆された。
19. 自己管理不良の小児期発症糖尿病患者に対する栄養指導法の検討－理解度に合わせた再教育を行った2症例から－	共	2010年08月	日本臨床栄養学会・日本臨床栄養協会第8回合同連合会	森元明美, 西本裕紀子, 谷口裕子, 井田忍, 里村憲一, 山藤陽子, 高岸和子 小児期に発症した糖尿病患者の栄養食事指導は、保護者主体に実施されるために、患者の自己管理不良が散見される。本研究は栄養食事指導を患者主体に切り替え、病気理解度確認実施後に抽出された課題を解決するために、管理栄養士の立場から指導法を見直し、患者の理解度に応じた指導法を確立することで、患者の指導に対する理解、関心が高まり、血糖コントロールの改善までに至った。
20. 自己管理不良症例の小児期発症糖尿病患者に対する栄養指導法の検討	共	2010年03月	日本臨床栄養学会・日本臨床栄養協会第8回合同連合会	森元明美, 西本裕紀子, 谷口裕子, 井田忍, 高岸和子 小児期に発症した糖尿病患者の栄養食事指導は、保護者主体に実施されるために、患者の自己管理不良が散見される。本研究は栄養食事指導を患者主体に切り替え、病気理解度確認実施後に抽出された課題を解決するために、管理栄養士の立場から指導法を見直し、患者の理解度に応じた指導法を確立することで、患者の指導に対する理解、関心が高まり、血

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
21. 体格改善のための栄養教育方法の検討—高度漏斗胸女児の1症例—	共	2009年09月	日本臨床栄養学会・日本臨床栄養協会第7回合同連合会	糖コントロールの改善までに至った。 松浦知美、西本裕紀子、窪田明男、高岸和子 高度漏斗胸で痩せ女児の手術施行を目的とした体格改善を図る目的で、1年間月1回の栄養指導、体重食事日誌活用、エネルギーの吸収効率向上を期待したブドウ糖摂取、ビタミン・鉄補給、不足エネルギーをMCTで補った結果、女児の食べる楽しみの増加、モチベーション維持と接触意欲向上、体格向上を可能とし、手術施行を可能とした。
22. 胸部食道術後皮膚管再建後の栄養補給	共	2009年09月	日本臨床栄養学会・日本臨床栄養協会第7回合同連合会	玉置まどか、高岸和子 皮膚管再建による食事形態・60度以下の温度制限と制約、術後症状を呈する症例に対して、コーチングを活かした栄養教育導入。この手法により患者自身は栄養補給法への参画が容易となり、積極的な栄養補給への姿勢を生み出した結果、静脈栄養法からの離脱を可能とし固形物食摂取まで移行を可能とした。さらに患者は食への関心が向上し、意識・行動変化に繋げることも可能となった。
23. 複数の接触関連因子障害をもつ上咽頭癌症例に対する栄養介入	共	2008年10月	日本臨床栄養学会・日本臨床栄養協会第6回合同連合会	玉置まどか、本田美和子、高岸和子 上咽頭癌治療中に嚥下痛、嚥下、咀嚼困難、開口、味覚、嗅覚障害と6つの摂食関連因子障害を発症し、疼痛増強により食事摂取量・ADL低下をきたした症例に対してコーチング技法を用いた栄養介入を行うことで食QOL向上を図った。介入により食物形態アップ、可能食物範囲の拡充、臥床から院内歩行まで可能となりADLおよび残存機能を活かした食QOL向上まで図れた。
24. 下咽頭癌術後による嚥下障害で誤嚥性肺炎を繰り返す患者への栄養アプローチ	共	2007年11月	日本臨床栄養学会・日本臨床栄養協会第5回合同連合会	玉置まどか、高岸和子、本田美和子 症例は下咽頭癌に対して下咽頭部分切除・咽頭半切除術後により嚥下障害が出現。以降は経腸栄養法のみで栄養管理を継続してきたが、誤嚥性肺炎を繰り返し、栄養障害も中等度判定と不良を呈していた。栄養教育にはコーチング・コミュニケーションを導入し、栄養補給法を経腸から経口へ移行、栄養状態向上を図り、患者QOL向上をも可能として手法の必要性について検討した。
25. 右下肢ガス壊疽に対する右大腿切断術後患者への栄養アプローチを行った1症例	共	2006年11月	第53回日本栄養改善学会	玉置まどか、高岸和子、 右下肢ガス壊疽に対する右大腿切断術を施行した患者の術後における食事摂取量低下の原因検索のために栄養補給法と食器考慮方法の2方面からの検討を行った。
26. 食生活調査による境界型糖尿病症例と健常者の比較	共	2006年11月	第53回日本栄養改善学会	高岸和子、奥田豊子、伊達ちぐさ、伊藤佐奈江、玉置まどか 人間ドックで境界型糖尿病と判定された症例の食生活、生活習慣、体格、臨床検査などの結果を詳細分析し、糖尿病累積発症の要因とされているエネルギー、脂質、飽和脂肪酸、食物繊維、肥満度、運動量といった生活習慣の問題点を検討した。
27. POSによる栄養指導記録内容の検討	共	2005年03月	第27回日本POS医療学会	高岸和子、松崎政三、丸田達也 電子カルテ化に向けてPOSによるSOAP形式での効率的な栄養指導記録記載のために、栄養教育上の問題点を抽出し検討した。
28. 糖尿病症例の栄養指導記録内容の検討—第二報—	共	2004年10月	第51回日本栄養改善学会	伊藤佐奈江、玉置まどか、丸田達也、友田昇治、高岸和子 第一報で抽出された栄養教育賞の問題点を年齢・体格の二群に分類し、個々の食事内容に関する問題点の関連性を統計解析し、因子の影響性を把握し、特性を整理することで今後の栄養教育にどの活かすべきか検討した。
29. 糖尿病症例の栄養指導記録内容の検討—第一報—	共	2004年10月	第51回日本栄養改善学会	玉置まどか、伊藤佐奈江、丸田達也、友田昇治、高岸和子 電子カルテ化に向けてPOSによるSOAP形式での効率的な栄養指導記録作成のために、食生活習慣、栄養素の過不足、食環境因子、社会的因子の4群に分けて栄養教育賞の問題点を抽出し検討した。
30. 慢性透析患者の透析導入1年目の栄養介入	共	2004年10月	日本臨床栄養学会・日本臨床栄養協会第2回合同連合会	高岸和子・丸田達也 小児腎炎より慢性化し透析導入に至った症例が結婚後外食・中食主体となり、水分管理、カリウム・リン管理不良となり入院。病棟訪問、退院語は外来栄養教育継続、サテライトとの病診連携により栄養問題の改善が図れ、広域におけるチーム医療のありかたについて検討した。
31. POS導入による栄養指導評価の検討	共	2004年03月	第26回日本POS医療学会	高岸和子・松崎政三 栄養教育評価の精度を高めるために、患者の意識および行動の変容の二点に絞り、栄養教育の介入可能なPOS方式の栄養指導評価表と自己評価表を考案し、栄養教育の向上と栄養指導後の栄養管理の充実度を

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
32. 術後食（胃切除）における栄養教育方法の検討 第二報：年代別術式別の分析	共	2004年02月	第23回食事療法学会	検討した。 高岸和子・玉置まどか・伊藤佐奈江・丸田達也・友田昇治 胃切除患者の家庭における早期栄養改善を図る目的で、年代別・術式別にアンケート調査内容・生化学データ・身体計測データ・臨床症状を詳細分析し、QOL向上を含め個別●を活かした食事と栄養教育のあり方を検討した。
33. 術後食（胃切除）における栄養教育方法の検討 第一報：退院患者へのアンケート調査の分析	共	2004年02月	第23回食事療法学会	玉置まどか・伊藤佐奈江・丸田達也・友田昇治・高岸和子 胃切除術を施行し、継続的病棟訪問による栄養教育を実施した患者を対象にアンケート調査を行い、栄養教育の理解度・実践度を把握し、患者の食事療法に対する考え方を得て、今後の栄養教育のあり方を導き出すために、詳細分析を行った。
34. 扁平上皮癌術後の栄養管理の一症例	共	2003年02月	第18回日本静脈経腸栄養学会	高岸・丸田・渡會・福井 NSTが設立したことで管理栄養士は栄養アセスメントの施行、栄養療法への参画が可能となった呼吸器外科術後の一症例につき、今後の参考とするために今行なった栄養管理（栄養補給計画の立案、食事や強制栄養補給法に対して医師への助言、必要栄養量の算出、身体計測、嚥下リハビリなど）について検討した。
35. 血糖コントロール不良症例に対する療養史銅の検討—強化外来導入の試み	共	2001年04月	第42回日本糖尿病学会総会	高岸・伊藤・畑崎・中谷・渡會 長期コントロール不良の糖尿病症例に、医師・管理栄養士・運動療法士がチームを組み、4週間に1回毎日に内科診察・栄養指導・運動指導を行う強化外来を開設し、その治療効果と教育向上を試みた。
36. 高血圧予防のための食生活習慣の改善	単	2000年07月	健康・生活センター	高岸和子 高血圧予防の食事ポイントを10項目にまとめ、各項目毎に食事性の問題点と上手なとり方について解説。減塩食や減塩食品を試食し、味を認識する。運動（ストレッチ体操、有酸素運動）、生活スタイルについても口述。
37. さわやかに生きる「食生活習慣を予防する」	単	2000年06月	第14回健康教室	高岸和子 食生活に関するチェックを実施。各チェック項目が何を判断するものかを解説。食生活のなかで不足しやすいビタミン・ミネラルをどう補うべきか、サプリメント食品との上手な付き合い方について口述。
38. 糖尿病の予防と知識	単	1999年07月	健康・生活センター	高岸和子 経口摂取した食物が体内でどのようにして消化・吸収されていくのか、主にたんぱく質、脂質、炭水化物を例にあげ解りやすいよう図解。インスリンと食べ物、インスリンと咀嚼、適切な食生活習慣について口述。
39. 糖尿病の予防と知識	単	1999年06月	健康・生活センター	高岸和子 経口摂取した食物が体内でどのようにして消化・吸収されていくのか、主にたんぱく質、脂質、炭水化物を例にあげ解りやすいよう図解。インスリンと食べ物、インスリンと咀嚼、適切な食生活習慣について口述。
40. 糖尿病栄養教育の効果判定の試み—スリム日誌の意義—	共	1999年05月	第41回日本糖尿病学会総会	高岸・巻石・畑中・星・渡會 家庭での食事管理の実践を推し量り、糖尿病栄養教育の向上と栄養指導後の栄養管理の充実を図る目的で、従来から実施している継続的栄養指導にスリム日誌の導入を試みた。
41. 栄養記録とPOS導入—POSによる症例検討と実習—	単	1998年05月	第924回チーム医療セミナー	高岸和子 患者への具体的な対応、栄養指導に必要なカルテの見方と調査、栄養指導に必要な教材と使い方、フォーマットを使った具体的記録方法、POSによる症例検討と演習を実施。
42. すぐに役立つベッドサイド・在宅での実践栄養食事指導—入院時栄養食事指導の実際—	単	1997年06月	第858回チーム医療セミナー	高岸和子 栄養指導のシステム化の必要性、病室における患者面談の注意点、病棟訪問の趣旨（1. 栄養状態の評価 2. 入院食および栄養補給の適正化 3. 患者の自己管理能力の育成）について口述。
43. 糖尿病栄養教育の効果判定の試み—継続栄養指導の意義—	共	1997年05月	第40回日本糖尿病学会総会	高岸・松崎・関谷・瀧本・藤田・星 糖尿病患者に生涯食事療法を継続できる意識をもたせ、正しい食事療法の技術を習得させることを目的として、継続的に栄養指導を行い、家庭での食事管理の実践を推し量り、栄養教育の向上と指導後の栄養管理の充実を図った。
44. すぐに役立つ実習セミナー—臨床栄養指導と指導記録の書き方—	単	1997年02月	第849回チーム医療セミナー	高岸和子 患者、家族、介護者に対する栄養指導に必要なカルテの見方と情報収集、教材の使い方、大阪厚生年金病院にて活用しているフォーマットを利用して、実

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
45. すぐに役立つ実習セミナー ―臨 床栄養指導と指導記録の書き方―	単	1997年01月	第838回チーム医療セミ ナー	実践的演習を実施。 高岸和子 患者、家族、介護者に対する栄養指導に必要なカル テの見方と情報収集、教材の使い方、大阪厚生年金 病院にて活用しているフォーマットを利用して、実 践的演習を実施。
46. すぐに役立つ実習セミナー ―臨 床栄養指導と指導記録の書き方―		1996年6月	第837回チーム医療セミ ナー	高岸和子 患者、家族、介護者に対する栄養指導に必要なカル テの見方と情報収集、教材の使い方、大阪厚生年金 病院にて活用しているフォーマットを利用して、実 践的演習を実施。
47. すぐに役立つ実習セミナー ―臨 床栄養指導と指導記録の書き方―	単	1996年12月	第836回チーム医療セミ ナー	高岸和子 患者、家族、介護者に対する栄養指導に必要なカル テの見方と情報収集、教材の使い方、大阪厚生年金 病院にて活用しているフォーマットを利用して、実 践的演習を実施。
48. すぐに役立つベッドサイド・在宅 での実践栄養食事指導―入院時栄 養食事指導の実際―	単	1996年11月	第823回チーム医療セミ ナー	高岸和子 栄養指導のシステム化の必要性、病室における患者 面談の注意点、病棟訪問の趣旨（1. 栄養状態の評 価 2. 入院食および栄養補給の適正化 3. 患者 の自己管理能力の育成）について口述。
49. すぐに役立つ実習セミナー ―臨 床栄養指導と指導記録の書き方―	単	1996年10月	第818回チーム医療セミ ナー	高岸和子 患者、家族、介護者に対する栄養指導に必要なカル テの見方と情報収集、教材の使い方、大阪厚生年金 病院にて活用しているフォーマットを利用して、実 践的演習を実施。
50. すぐに役立つベッドサイド・在宅 での実践栄養食事指導―入院時栄 養食事指導の実際―	単	1996年05月	第805回チーム医療セミ ナー	栄養指導のシステム化の必要性、病室における患者 面談の注意点、病棟訪問の趣旨（1. 栄養状態の評 価 2. 入院食および栄養補給の適正化 3. 患者 の自己管理能力の育成）について口述。
51. 境界型糖尿病患者の食生活の実態 ―人間ドックよ	共	1996年05月	第39回日本糖尿病学会 総会	高岸・松崎・瀧本・畑中・藤田・星 今後の栄養教育の指標を得るために、人間ドックで 境界型と判定された1050例の患者食生活調査（食習 慣・嗜好・栄養素摂取量）結果と身体計測結果を分 析した。
52. すぐに役立つベッドサイド・在宅 での実践栄養食事指導―入院時栄 養食事指導の実際―	単	1995年11月	第788回チーム医療セミ ナー	高岸和子 栄養指導のシステム化の必要性、病室における患者 面談の注意点、病棟訪問の趣旨（1. 栄養状態の評 価 2. 入院食および栄養補給の適正化 3. 患者 の自己管理能力の育成）について口述。
53. 糖尿病患者の栄養教育効果判定の 試み	共	1995年05月	第38回日本糖尿病学会 総会	高岸・松崎・瀧本・畑中・藤田・星 教育担当者と患者との到達度の相違点を埋めてい くため、特に患者の意識および行動の変容の2点に絞 り、栄養教育に介入可能な栄養評価表を2種考案し 、糖尿病栄養教育の向上と栄養指導後の栄養管理の 充実を図った。
54. POSによる栄養指導評価の試み	共	1995年05月	第37回日本糖尿病学会 年次学術集会	高岸和子・松崎政三・星充 患者栄養教育の向上、独立した治療手段として評価 のできる栄養指導の実践にあたり、栄養状態をより 詳細にかつ的確に知るためにも栄養アセスメントを 行い、医療スタッフ共通のカルテ記載方法としてPOS の具体化を図った。
55. POSによる栄養指導評価の試み	共	1994年05月	第36回日本糖尿病学会 総会	高岸・松崎・瀧本・畑中・藤田・星 患者栄養教育の向上、独立した治療手段として評価 のできる栄養指導の実践にあたり、栄養状態をより 詳細にかつ的確に知るためにも栄養アセスメントを 行い、医療スタッフ共通のカルテ記載方法としてPOS の具体化を図った。
56. 糖尿病透析患者のための略式食品 交換早見表の評価	共	1993年05月	第35回日本糖尿病学会 総会	高岸・松崎・瀧本・畑中・藤田・星 リン管理とたんぱく質確保が容易で、単位計算が不 要な、リーフレットを用いた略式早見食品交換表を 考案し、糖尿病腎症透析症例の退院後の食事療法に 採用し、家庭での栄養管理の充実について検討した 。
57. 糖尿病性腎症患者のための食品交 換早見表の評価	共	1992年05月	第35回日本糖尿病学会 総会	高岸・田淵・為房・瀧本・畑中・藤田・星 たんぱく質管理、エネルギー確保を意図とした食品 交換早見表を考案し、糖尿病性腎症例の食事療法の 継続実施に適用することにより、栄養管理の充実に ついて検討した。
58. 家族のための健康クリニック「食 生活チェック」	単	1991年10月	ウエルケアネットワー ク サンケイリビング 新聞者主催	高岸和子 日頃の食生活に問題はないのか、食生活チェックシ ートで自己診断を実施。食品添加物、過酸化脂質、 抗酸化物質、などについて解説。食べ方（咀嚼、食 事時間、食事回数、欠食、etc.）を見直す必要性が なぜあるのか口述。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
59. 家族のための健康クリニック「今・食生活が危ない」	単	1991年09月	ウエルケアネットワーク サンケイリビング 新聞者主催	高岸和子 食生活チェックシートを用いての自己診断を実施し、自己の食生活の問題点を把握。望ましい食習慣のあり方と適切な食品選択（加工食品、冷凍食品、チルド食品etc.）、調理工夫方法につき口述。
60. 家族のための健康クリニック「成人病にご用心」	単	1991年09月	ウエルケアネットワーク サンケイリビング 新聞者主催	高岸和子 生活スタイルチェックを行い、主に食生活と成人病との関わりについて解説。身体計測（体重、ウエスト／ヒップ比、皮下脂肪量）を実施し、自己の肥満度を認識してもらい、食生活の改善の必要性、対処方法について口述。
61. 当院における糖尿病栄養指導の実際（第2報）—糖尿病昼食会三年間の試み—	共	1991年05月	第34回日本糖尿病学会 総会	高岸・田淵・為房・中村・瀧本・畑中・藤田・星 患者が食に対する関心を高め、食事療法の理解を深めるため、糖尿病昼食会を開設し、過去七年間の食事記録用紙の分析結果を参考とし、糖尿病昼食会を開設し、独自の栄養指導媒体の考案と栄養指導方針の確立を図った。
62. 健康は食生活から	単	1990年11月	ウエルケアネットワーク サンケイリビング 新聞者主催	高岸和子 日頃の食生活を見直す必要性について解説。健康診断チェックを実施し、成人病（主に糖尿病、肥満症、高血圧症、動脈硬化症）と食事との関係について図解。適切な食生活のあり方について口述。
63. 健康家族の献立チェック	単	1990年11月	ウエルケアネットワーク サンケイリビング 新聞者主催	高岸和子 家庭における食事のあり方について、外食、市販のお弁当、お惣菜、冷凍食品、レトルト食品、加工食品などの問題点と上手な使い方と工夫方法などを口述。
64. リーフレットを用いた新食品交換表の評価	共	1990年05月	第33回日本糖尿病学会 総会	高岸・為房・中村・瀧本・畑中・藤田・星 計量の簡素化、食品選択幅の拡大を意図としたリーフレット形式の新食品交換表を作成し、肥満糖尿病患者の食事療法の継続実施に適用することにより、栄養管理の充実について検討した。
65. リーフレットを用いた減食療法の評価	共	1989年11月	第10日本肥満学会	高岸和子・為房恭子・藤田峻作 1. たんぱく質の確保が容易である。2. 単位計算、表内交換なしでエネルギー、栄養バランスがとれる。3. 制限食品の緩和を図り、食品選択幅を広げる。4. 減量のための制限食という心理的圧迫感をできるだけ緩和する。以上4項目を主眼とした新食品交換表を考案し、肥満症例の減食量法の継続実施に適応し、栄養管理の充実について検討した。
66. 食卓の健康診断	単	1989年07月	ウエルケアネットワーク サンケイリビング 新聞者主催	高岸和子 食生活チェックシートを用いて自己診断を実施。自己の診断結果を今後どう軌道修正していくべきか、各項目に添って、食卓のあり方、なぜ問題であるのか、について詳細に解説。
67. 当院における糖尿病栄養指導の実際（第1報）—食事記録用紙による分析—	共	1989年05月	第32回日本糖尿病学会 総会	高岸・伊藤・為房・中村・高田・瀧本・藤田・星 栄養指導受講後の患者が記載した過去7年間に互る食事記録用紙より、栄養教育の目標に添って、患者様の食に対するとらえ方、教育入院効果、更には管理栄養士の指導方針のあり方について分析した。
68. 健康は食生活から	単	1989年04月	ウエルケアネットワーク サンケイリビング 新聞者主催	高岸和子 日頃の食生活を見直す必要性について解説。健康診断チェックを実施し、成人病（主に糖尿病、肥満症、高血圧症、動脈硬化症）と食事との関係について図解。適切な食生活のあり方について口述。
69. 昼食を通した栄養指導	共	1989年03月	第32回大阪透析研究会	高岸和子・為房恭子・白井大祐 大阪厚生年金病院で実施している透析食の昼食摂取状況を把握し、さらに昼食時の食事を通した食事指導を強化することによる栄養管理の充実について検討した。
70. 高食物繊維（Maeg lak）併用の食事療法の試み—低身長者および高齢者に対する有用性—	共	1988年10月	第26回日本社会保険医学会	高岸和子・高島裕子・伊藤薫・小川尋美・為房恭子・藤田峻作 高食物繊維（Maeg lak）併用の減食療法実施により、良好な成績をあげ既に他の学会に報告している。今回は特に減量が困難であるとされている低身長者および高齢者に対するMaeg lak併用食の有用性について検討した。
71. 高食物繊維（Slime Pasta）併用の食事療法の試み（第2報）	共	1988年09月	第35回日本栄養改善学会	高岸和子・伊藤薫・高島裕子・藤田峻作 高食物繊維（Slime Pasta）併用の低エネルギー食献立を作成し、高度肥満者グループに供与し、その減量効果と、同時に行った栄養指導効果について分析した。
72. 高食物繊維（Maeg lak）併用の食事療法の試み（第1報）	共	1988年05月	第6回肥満治療研究会	高岸和子・伊藤薫・高島裕子・藤田峻作 できる限り通常の食事形態と変わることなく、無理のない低エネルギー食を実施する為に、食物繊維（Maeg lak）を利用した料理を考案し、高度肥満症例に

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
				供与し、減量効果と減量体重の長期維持と治療脱落率の改善を図った。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 文部科学省科学研究補助金	新規	共	2012年	慢性腎臓病の新しい臨床栄養教育-変化ステージ・栄養アウトカム・指導媒体の構築-

学会及び社会における活動等

年月日	事項
	日本臨床栄養学会 評議委員 日本糖尿病学会 日本栄養改善学会 評議委員 日本臨床栄養協会 評議委員